

南陽市遺跡分布調査報告書（11）

市内遺跡分布調査

第五次長岡南森遺跡確認調査（概報）

2023 年 3 月

南陽市教育委員会

南陽市遺跡分布調査報告書（11）

南陽市埋蔵文化財調査報告書第24集
市内遺跡分布調査
第五次長岡南森遺跡確認調査（概報）

令和5年3月

南陽市教育委員会



長岡南森遺跡
第15 トレンチ完掘状況

卷頭写真 1



下弦館周辺赤色立体図

序

この度、「南陽市遺跡分布調査報告書（11）」を発行する運びとなりました。本書は、南陽市教育委員会が、令和4年度に国庫補助事業（市内遺跡発掘調査等事業）として、各種の開発事業と埋蔵文化財保護との調整を図るために実施した踏査・試掘調査・工事立会等の分布調査の成果の他、「長岡南森遺跡」の第5次確認調査の成果概要をまとめたものです。

「長岡南森遺跡」については、遺跡の性格を明らかにし、その後の保全等の検討をするため継続して調査を実施しております。当初、その形状から大型古墳の可能性を視野に入れ調査を行ってまいりました。今年度の確認調査の結果では、古墳が築かれた明確な状況は確認できませんでしたが、代わりに古墳時代の豪族居館を含めた何らかの集落的な遺跡である可能性が出てきたところです。もし古墳時代の豪族居館であれば、県内や東北でも類例の少ない貴重な成果となります。次年度はその可能性を検証するため、引き続き調査を行う予定です。

本市には、「長岡南森遺跡」だけではなく、旧石器時代から中世に至るまで数多くの遺跡がございます。遺跡は、その土地や地域の歴史を明らかにする貴重な宝です。この宝は、世代を越えて歴史と文化を伝え、故郷を愛する心やそこに生きる人々の誇りを育む心の糧となるものであり、大切に守っていかなければなりません。引き続き皆様の御理解と御協力、ならびに関係各位の御指導をお願いいたします。

結びになりますが、本報告書作成にあたり、各種調査に御指導と御協力いただいた関係各位に厚く御礼申し上げます。

令和5年3月

南陽市教育委員会
教育長 長濱 洋美

目 次

市内遺跡分布調査	
I 調査の概要	
1 調査の目的と概要	1
2 調査方法	1
II 踏査	
1 小岩沢字村東地内	7
2 小滝館（字中堀四の郭群）	8
3 小滝館（字中堀四）	9
4 砂塚字権現堂	10
III 試掘調査	
1 池黒字猫子屋敷	11
2 金山立石	12
3 二色根館跡	13
4 西畠遺跡	16
5 馬場遺跡	17
6 斎藤館跡	18
7 樋ノ口遺跡	19
8 東畠A遺跡	20
9 宮内小学校敷地内遺跡隣地	21
10 長岡南森遺跡	22
11 長岡南森遺跡	23
12 植木場一遺跡	24
IV 立会調査	
1 諏訪前遺跡	25
2 中落合館跡	26
3 前田遺跡	27
4 長岡山東遺跡	28
5 長岡山東遺跡	29
6 月ノ木B遺跡隣地	30
7 蒲生田館跡隣地	31
8 東六角遺跡隣地	32
9 天矢場遺跡	33
10 蒲生田山古墳群	34
11 中屋敷遺跡	35
V 中世城館等測量調査	
1 調査概要と目的	36
2 調査方法	36
3 測量方法と経過	36
4 調査成果	37
第五次長岡南森遺跡確認調査（概報）	
I 調査の経緯と目的	45
II 遺跡の位置と環境	51
III 調査の概要	52
IV 調査結果	62
V 理化学分析	65

図 版

第1図	調査位置図(1)	2	第41図	長岡南森遺跡ピット柱状図	23
第2図	調査位置図(2)	3	第42図	長岡南森遺跡ピット位置図	23
第3図	調査位置図(小滝地区)	3	第43図	植木場一遺跡調査位置図	24
第4図	調査位置図(金山地区)	3	第44図	植木場一遺跡トレンチ柱状図	24
第5図	調査位置図(川橋地区)	4	第45図	植木場一遺跡遺構配置図	24
第6図	小岩沢字村東調査位置図	7	第46図	植木場一遺跡トレンチ位置図	24
第7図	小滝館調査位置図および踏査ルート	8	第47図	諏訪前遺跡調査位置図	25
第8図	小滝館調査位置図および踏査ルート	9	第48図	諏訪前遺跡柱状図	25
第9図	砂塚字権現堂調査位置図	10	第49図	中落合館跡調査位置図	26
第10図	池黒字獺子屋敷調査位置図	11	第50図	中落合館跡柱状図	26
第11図	池黒字獺子屋敷ピット柱状図	11	第51図	前田遺跡調査位置図	27
第12図	池黒字獺子屋敷ピット位置図	11	第52図	前田遺跡柱状図	27
第13図	金山字立石調査位置図	12	第53図	長岡山東遺跡調査位置図	28
第14図	金山字立石トレンチ柱状図	12	第54図	長岡山東遺跡柱状図	28
第15図	金山字立石トレンチ位置図	12	第55図	長岡山東遺跡調査位置図	29
第16図	二色根館跡調査位置図	13	第56図	長岡山東遺跡柱状図	29
第17図	二色根館跡トレンチ柱状図	13	第57図	月ノ木B遺跡隣地調査位置図	30
第18図	二色根館跡トレンチ位置図	13	第58図	月ノ木B遺跡隣地柱状図	30
第19図	西畠遺跡調査位置図	16	第59図	蒲生田館跡隣地調査位置図	31
第20図	西畠遺跡ピット柱状図	16	第60図	蒲生田館跡隣地柱状図	31
第21図	西畠遺跡ピット位置図	16	第61図	東六角遺跡隣地調査位置図	32
第22図	馬場遺跡調査位置図	17	第62図	東六角遺跡隣地柱状図	32
第23図	馬場遺跡ピット柱状図	17	第63図	天矢場遺跡調査位置図	33
第24図	馬場遺跡ピット位置図	17	第64図	天矢場遺跡柱状図	33
第25図	斎藤館跡調査位置図	18	第65図	蒲生田山古墳群調査位置図	34
第26図	斎藤館跡柱状図	18	第66図	蒲生田山古墳群ピット柱状図	34
第27図	斎藤館跡ピット位置図	18	第67図	中屋敷遺跡調査位置図	35
第28図	樋ノ口遺跡調査位置図	19	第68図	中屋敷遺跡柱状図	35
第29図	樋ノ口遺跡トレンチ柱状図	19	第69図	計測飛行範囲図	37
第30図	樋ノ口遺跡トレンチ位置図	19	第70図	下荻館跡図	38
第31図	東畠A遺跡調査位置図	20	第71図	薬師山物見略図	39
第32図	東畠A遺跡ピット柱状図	20	第72図	小屋館・経塙山物見略図	40
第33図	東畠A遺跡ピット位置図	20	第73図	長岡南森遺跡平面図	47
第34図	宮内小学校敷地内遺跡隣地調査位置図	21	第74図	T 14 トレンチ図	53
第35図	宮内小学校敷地内遺跡隣地トレンチ柱状図	21	第75図	T 15 トレンチ SK 7図	54
第36図	宮内小学校敷地内遺跡隣地トレンチ位置図	21	第76図	T 15 トレンチ図	55
第37図	長岡南森遺跡調査位置図	22	第77図	T 16a トレンチ図	56
第38図	長岡南森遺跡ピット柱状図	22	第78図	T 16b トレンチ図	57
第39図	長岡南森遺跡ピット位置図	22	第79図	T 17・T 18 トレンチ図	58
第40図	長岡南森遺跡調査位置図	23			

表

表1 分布調査表	5
表2 グリッド数値表	45

巻頭写真

巻頭写真1 長岡南森遺跡 第15トレンチ完掘状況

巻頭写真2 下荻館周辺赤色立体図

長岡南森遺跡確認調査写真図版

写真図版1 第14トレンチ調査状況	写真図版6 第18トレンチ調査状況
写真図版2 第15トレンチ調査状況	写真図版7 出土遺物（1）
写真図版3 第16aトレンチ調査状況	写真図版8 出土遺物（2）
写真図版4 第16bトレンチ調査状況	
写真図版5 第17トレンチ調査状況	

市内遺跡分布調査

本報告は、文化庁の補助を受けて令和4年度に南陽市教育委員会が実施した開発事業との調整、遺跡台帳（遺跡地図）整備に関する市内遺跡分布調査報告である。

調査は、南陽市教育委員会が実施した。

出土遺物、調査記録類は報告書作成後、南陽市教育委員会が保管する。

凡　　例

調　　査　　主　　体　　南陽市教育委員会社会教育課埋蔵文化財係

調　　査　　期　　間　　令和4年4月1日から令和5年3月31日

発掘調査担当者　　社会教育課長　　山口広昭

　　調　　査　　主　　任　　角田朋行（課長補佐兼埋蔵文化財係長）

　　埋蔵文化財係主任　　高橋　徹

　　埋蔵文化財係会計年度任用職員　齊藤紘輝

整理作業担当者　　埋蔵文化財係会計年度任用職員　吉田江美子

　　埋蔵文化財係会計年度任用職員　山田　渚

1 本報告書の執筆は角田朋行・高橋徹・齊藤紘輝が担当し、遺物整理作業・遺物写真撮影は山田渚、報告書デジタル編集・構成作業は吉田江美子、山田渚が担当した。

2 挿図の縮尺はスケールで示した。

3 本書で使用した遺構の分類記号は下記の通りである。

S D · · · 溝跡　　S P · · · ピット　　S K · · · 土坑

T T · · · テストトレンチ　　T P · · · テストピット

4 写真図版は任意の縮尺で採録した。

I 調査の概要

1 調査の目的と概要

今年度は、従来の住宅地造成と個人住宅建設に加え、事業用の倉庫建設など各種開発との調整を図り、遺跡の保護のための試掘調査及び工事立会を実施した。

各種調査に伴い遺跡台帳整備も順調に成果が上がってきており、未調査地域はまだ残されている。特に市域の7割を占める山間地や、古くからの住宅地も未調査地域が多い。また、周知の遺跡でも情報が少ない遺跡が存在するため、それらも含めて遺跡台帳整備のための分布調査を継続している。

周知の遺跡の中でも、長岡南森遺跡については今年度が5年目の確認調査となり、次年度以降も継続する予定である。

令和4年4月から12月までの開発行為に伴う遺跡所在の有無に関する照会は、計72件であった。直接的な対応を実施した件数は計24件であった。内訳は、試掘調査12件、工事立会12件である。関連して踏査を5件実施した。試掘調査は、埋蔵文化財包蔵地及びその隣接地・分布調査未実施地において実施に努めた。工事立会は、工事面積が狭い場合、埋蔵文化財を破壊する恐れが少ないと判断した場合、及び分布調査未実施地において実施した。

2 調査方法

(1) 踏査及び分布調査

踏査は開発事業計画地の範囲内及びその周辺において実施し、遺跡の範囲と開発予定区域の平面的な関係を確認する調査である。主に周知の資料により、地形状況や従来の報告等の内容を確認している。GPS付のカメラやスマートフォンを活用し、簡易な位置情報を記録しながら踏査した。遺跡台帳の整備を図るために重要遺跡の航空レーザー測量調査を行った。

(2) 試掘調査

試掘調査は埋蔵文化財の有無を確認するための部分的な発掘調査である。本市では遺構や遺物の平面的な分布範囲や遺構確認面までの深さ等を把握し、遺跡内容の把握を行う確認調査の側面も有する。調査予定地内にグリッドを設定のうえ試掘溝あるいは試掘坑を配し、表土を人力や重機で除去後、堆積土を人力で除去し、遺構の有無を確認した。

(3) 工事立会

工事立会は基本的に開発事業による遺跡への影響が軽微な場合に、工事施工に立ち会って実施し、遺構や遺物が発見された場合には記録保存を行う調査である。工事の進捗にあわせ、土工事を行う際に立ち会いを行い、遺構・遺物の確認及び土層の確認を行った。掘削深度は工事の掘底面である。遺跡未確認地の場合も可能な限り工事立会を行い遺跡の把握に努めた。

(4) 確認調査

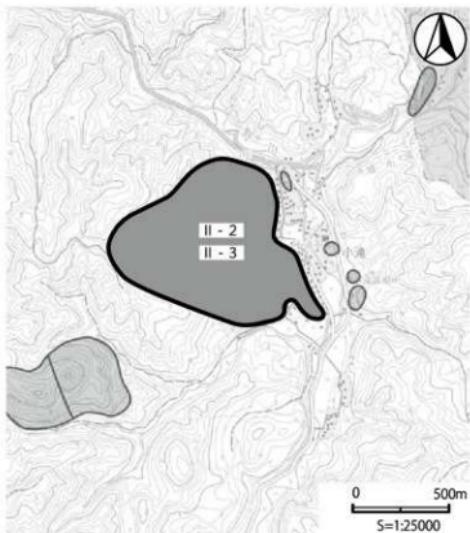
埋蔵文化財包蔵地の範囲・性格内容等の概要を把握する部分的な発掘調査である。重要遺跡である長岡南森遺跡について第5次調査を実施した。



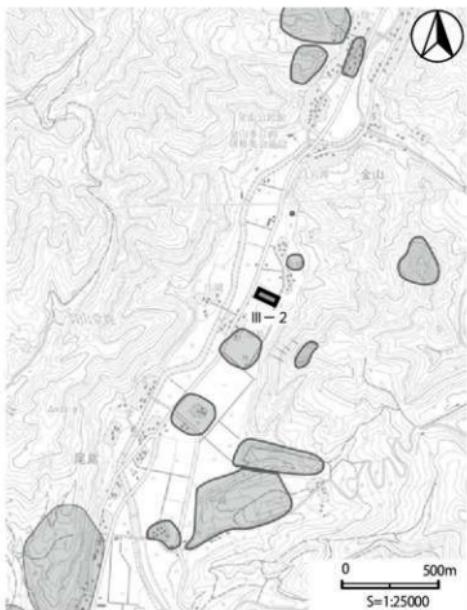
第1図 調査位置図（1）



第2図 調査位置図（2）



第3図 調査位置図（小滝地区）

第4図 調査位置図（金山地区）
国土地理院発行「赤湯」2万5千分の1を使用

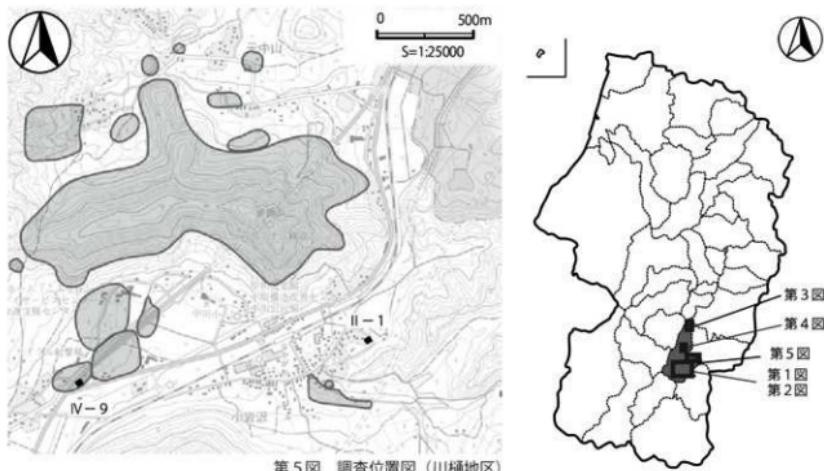


表1 分布調査表

地区	事業区分	調査期間	遺跡名等	場所	区分	試掘結果等
赤湯	民間開発	3月23日～24日	謙訪前遺跡	三間字謙訪西 383-1、384外	立会	なし
中川	民間開発	4月4日	未確認	小岩沢字村東 651-4	踏査	なし
漆山	民間開発	4月11日	未確認	池黒字猫子屋敷 1188-4	試掘	遺物小片若干量
小瀧	分布調査	4月18日	小瀧館跡	小瀧字中堀四	踏査	遺構確認
小瀧	分布調査	4月19日	小瀧館跡	小瀧字十二上、字中堀四	踏査	遺構確認
金山	民間開発	4月20日	未確認	金山字立石 5183、5184	試掘	なし
赤湯	民間開発	4月26日	二色根館跡	二色根字前田 488外	試掘	なし
沖郷	民間開発	5月10日	中落合館跡	中落合 635	立会	なし
赤湯	確認調査	5月11日～7月19日	長岡南森遺跡	長岡字南森	本調査	概報参照
沖郷	民間開発	6月1日	西畠遺跡	萩生田字西畠 470-1	試掘	なし
赤湯	民間開発	6月14日～7月13日	長岡山東遺跡	長岡字北田外	立会	なし
漆山	民間開発	6月15日	前田遺跡	羽付 311	立会	なし
赤湯	民間開発	6月16日	長岡山東遺跡	長岡字西田中南 632-1	立会	なし
赤湯	市道整備	6月23日	長岡南森遺跡	長岡字西田 1796-1、字南森西 1752	試掘	なし
宮内	民間開発	7月11日	馬場遺跡	宮内字馬場二 479外	試掘	なし
赤湯	民間開発	7月14日～7月15日	月ノ木B遺跡隣地	赤湯字中堀南 1134-1	立会	なし
宮内	民間開発	7月15日	斎藤館跡	宮内字富貴田一 4545-1外	試掘	なし
沖郷	市道整備	7月27日	橋ノ口遺跡	若狭郷屋字玉ノ木	試掘	遺物出土
赤湯	市道整備	8月5日～11月11日	蒲生田山古墳群	上野字山居沢	立会	なし
中川	民間開発	8月5日、9月9日、13日	天矢場遺跡	川橋字高野 1392-1	立会	なし
沖郷	民間開発	8月18日	蒲生田館跡隣地	蒲生田字町ノ裏 1846	立会	なし
宮内	民間開発	9月13日	宮内小学校敷地内遺跡隣地	宮内字田町二 3436-4外	試掘	なし
赤湯	民間開発	9月8日	東畠A遺跡	俎柳字東畠一 1102外	試掘	遺物出土、遺構なし
沖郷	民間開発	9月9日、12日	東六角遺跡隣地	郡山 573外	立会	なし
沖郷	民間開発	9月13日	中屋敷遺跡	若狭郷屋字中屋敷	立会	なし
梨郷	分布調査	10月4日	未確認	砂塚字権現堂	踏査	須恵器（小片）
赤湯	市道整備	10月20日	長岡南森遺跡	長岡字南森西 1752	試掘	なし
沖郷	民間開発	10月25日	植木場一遺跡	露橋字地蔵堂 355-1	試掘	土器片少量出土
漆山	分布調査	10月24日、31日、11月7日、17日	天王遺跡隣地	漆山字塚原一、三外	踏査	なし
沖郷	民間開発	12月23日	若狭郷屋敷跡隣地	若狭郷屋字浦城 667-2	立会	なし
漆山	民間開発	12月28日	未確認	池黒字土川原 1454	立会	なし
沖郷	雨水幹線整備	10月～	早稻田遺跡	郡山地内	立会	なし（立会継続中）
宮内	河川改修	9月～	久保遺跡	宮内地内	立会	なし（立会継続中）

II 踏査

1 小岩沢字村東地内

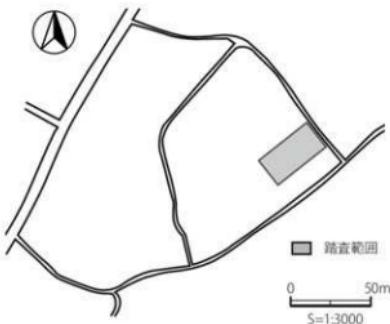
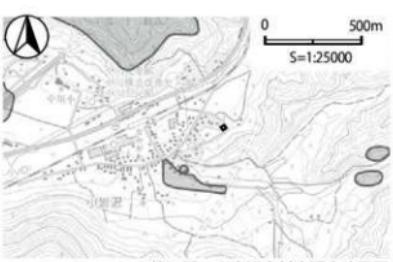
- (1) 調査日 令和4年4月4日
- (2) 調査場所 南陽市小岩沢字村東 651-4
- (3) 調査目的 未調査地であり、遺跡台帳整備のために現況を確認する。

(4) 調査方法及び内容

写真撮影を行いながら踏査する。

(5) 結果

現況は、耕作地跡になっている。遺構・遺物は確認されなかった。



現場現況（北より）



現場現況（北より）

2 小滝館（字中堀四の郭群）

(1) 調査日 令和4年4月18日

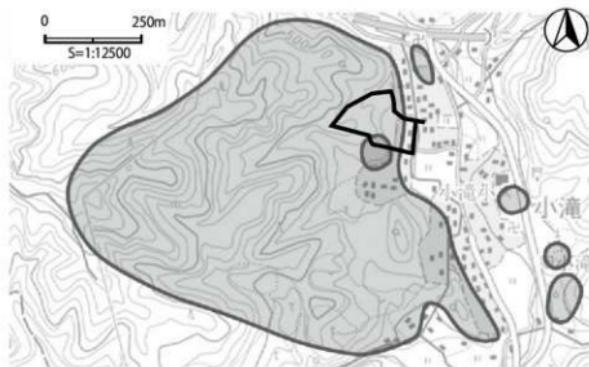
(2) 調査場所 南陽市小滝字中堀四

(3) 調査目的 未調査地であり、遺跡台帳整備のために現況を確認する。

(4) 調査方法及び内容

写真撮影を行なながら踏査する。

(5) 結果 館跡に関連する曲輪群と修法壇と考えられる方形に高まる地形を確認した。



第7図 小滝館調査位置図および踏査ルート（黒線）



小滝館全景（東より）



小滝館曲輪跡（東より）



小滝館曲輪跡（（東より）



小滝館頂上の修法壇（北東より）

3 小滝館

(1) 調査日 令和4年4月19日

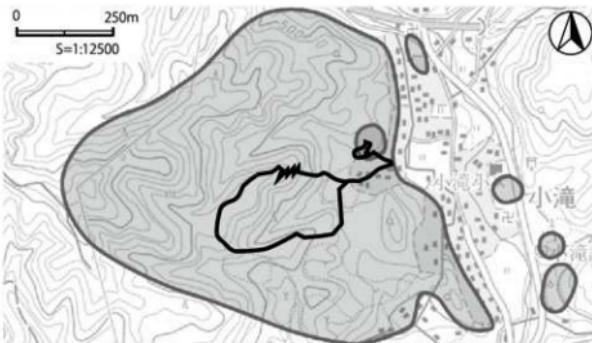
(2) 調査場所 南陽市小滝字十二上、字中堀四

(3) 調査目的 未調査地であり、遺跡台帳整備のために現況を確認する。

(4) 調査方法及び内容

写真撮影を行いながら踏査する。

(5) 結果 館跡に関連する曲輪群や堀切等を確認した。また修法壇と称される方形の塹を2基確認した。



第8図 小滝館調査位置図および踏査ルート（黒線）



小滝館全景（東より）



小滝館堀切（南東より）



小滝館西郭群の曲輪跡（南より）



小滝館東郭群の曲輪跡（北より）

4 砂塚字權現堂

(1) 調査日 令和4年10月4日

(2) 調査場所 南陽市砂塚字権現堂

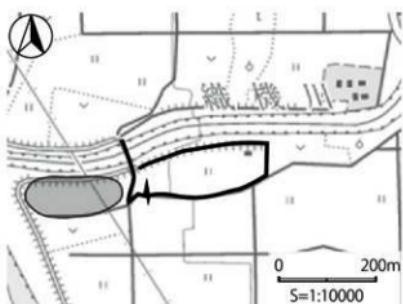
(3) 調査目的 未調査地であり、遺跡台帳整備のために現況を確認する。

(4) 調査方法及び内容

写真撮影を行いながら踏査する。

(5) 結 果

踏査地内において須恵器坏片・須恵器の大甕片が表探されたため、北徳田遺跡の範囲修正と遺跡内容の変更（時代区分に平安時代を追加）する必要があると思われる。



第9図 砂塚字権現堂調査位置図
(黒線が踏査ルート)



砂塚字権現堂全景（北東より）



砂塚字權現堂内神社（北東より）

III 試掘調査

1 池黒字猫子屋敷

- (1) 調査日 令和4年4月11日
- (2) 調査場所 南陽市池黒字猫子屋敷 1188-4
- (3) 調査原因 個人住宅建設
- (4) 調査方法及び内容

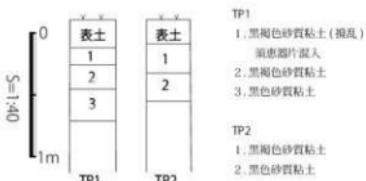
未調査地であり、遺跡台帳整備のために現況を確認する。調査対象範囲 272.41m²について、1m × 1m の試掘穴を 2ヶ所設定し調査を実施した。

(5) 結果

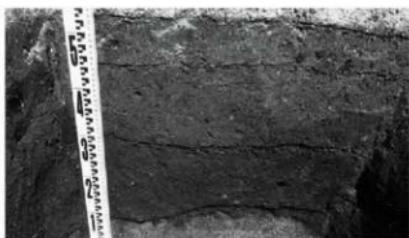
TP1 では須恵器片が 1点、土師器片が 2点、TP2 では土師器片が 2点出土した。遺構は検出されなかった。



第10図 池黒字猫子屋敷調査位置図



第11図 池黒字猫子屋敷ピット柱状図



TP1 土層断面(南より)



第12図 池黒字猫子屋敷ピット位置図



TP2 土層断面(南より)

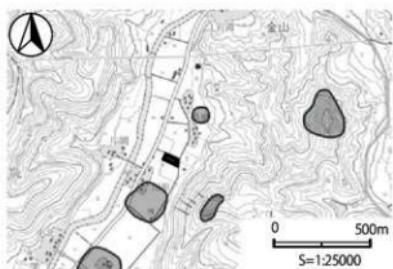
2 金山字立石

- (1) 調査日 令和4年4月20日
- (2) 調査場所 南陽市金山字立石 5183、5184
- (3) 調査原因 多機能交流拠点施設建設
- (4) 調査方法及び内容

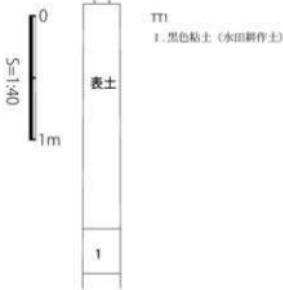
当該地は遺跡分布調査未実施地であり開発面積が1000m²を超えることから、遺跡の有無を把握するために試掘調査を行うものとした。調査対象範囲3550m²について、幅2m×長5mの試掘溝（一部深堀を行い、深堀区南側に安全確保のための段を設けるために、幅1.3m×長1m拡張した）を1ヵ所設定し、重機による掘削後、人力による精査を実施した。

(5) 結 果

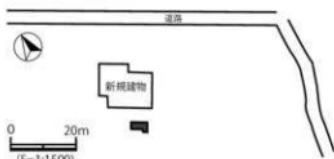
遺物・遺構は確認されなかった。



第13図 金山字立石調査位置図



第14図 金山字立石トレンチ柱状図



第15図 金山字立石トレンチ位置図



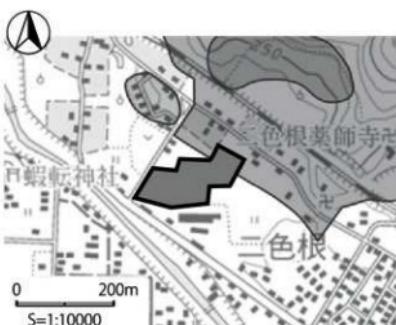
調査区全景(西より)



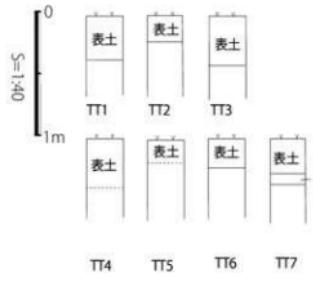
TT1 土層断面 (北西より)

3 二色根館跡

- (1) 調査日 令和4年4月26日
- (2) 調査場所 南陽市二色根字前田488外21筆
- (3) 調査原因 宅地造成工事(93条届)
- (4) 調査目的 二色根館跡に一部かかることから試掘調査を行うものとした。調査対象範囲 15,526.44m²に試掘トレンチを 1 m × 20 m を 2 本、1 m × 11.3 m を 1 本、1 m × 10 m を 2 本、1 m × 7.5 m を 1 本、0.8 m × 2 m を 1 本設定し調査を実施した。
- (5) 結果
遺物・遺構は確認されなかった。



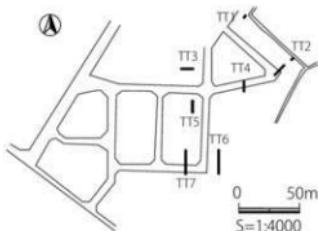
第16図 二色根館跡調査位置図



第17図 二色根館跡トレンチ柱状図



調査区全景 (北西より)



第18図 二色根館跡トレンチ配置図



TT1 トレンチ（南より）



TT1 土層断面（東より）



TT2 トレンチ（南より）



TT2 土層断面（東より）



TT2 トレンチ延長部（南より）



TT2 延長部土層断面（南より）



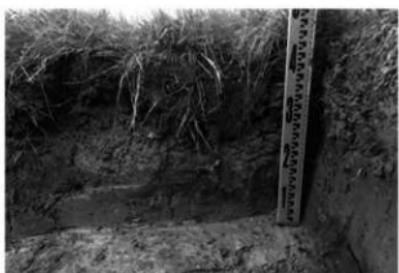
TT3 トレンチ（西より）



TT3 土層断面（西より）



TT4 トレンチ（南より）



TT4 土層断面（東より）



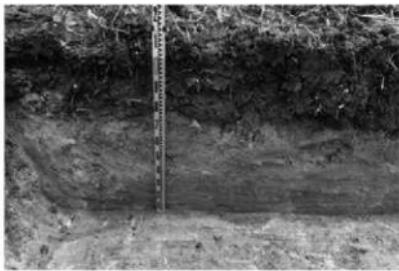
TT5 トレンチ（南より）



TT5 土層断面（東より）



TT6 トレンチ（北より）



TT6 土層断面（西より）



TT7 トレンチ（北より）



TT7 土層断面（北より）

4 西畠遺跡

(1) 調査日 令和4年6月1日

(2) 調査場所 南陽市萩生田字西畠 470-1

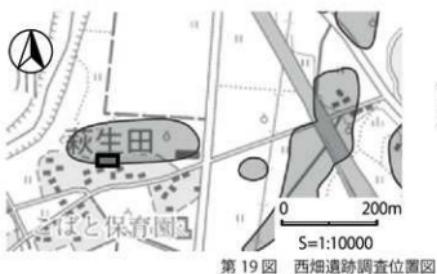
(3) 調査原因 農業用乾燥調整施設建設（93条届）

(4) 調査方法及び内容

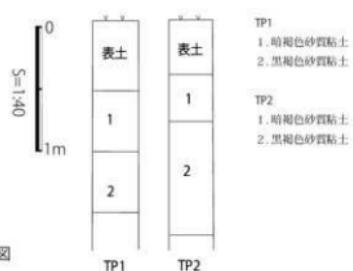
当該地は西畠遺跡にかかるところから、試掘調査を行うものとした。調査対象範囲 194.4m² に 1m × 1m の試掘穴を 2ヶ所設定し調査を実施した。

(5) 結果

今回の調査では、TP1 から遺物は出土せず、TP2 表土から現代の陶器片・磁器片が出土した。また遺構は確認されなかった。



第19図 西畠遺跡調査位置図



第20図 西畠遺跡ピット柱状図



TP1 土層断面 (南より)



TP2 土層断面 (南より)



第21図 西畠遺跡ピット位置図

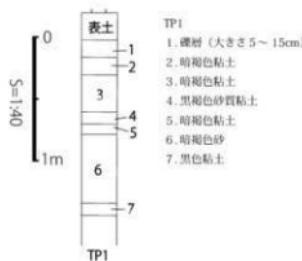
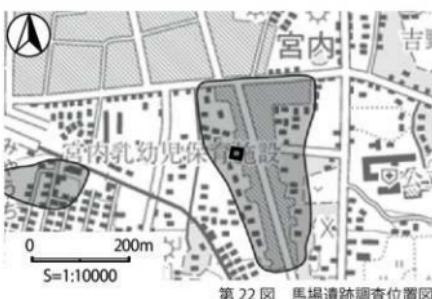
5 馬場遺跡

- (1) 調査日 令和4年7月11日
- (2) 調査場所 南陽市宮内字馬場二479外
- (3) 調査原因 倉庫建設(93条届)
- (4) 調査方法及び内容

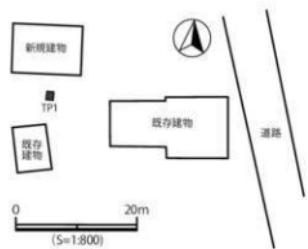
当該地は馬場遺跡にかかる事から、試掘調査を行うものとした。1.2m×1.5mの試掘穴1ヶ所を設定し調査を実施した。

(5) 結果

遺物・遺構は確認されなかった。



第23図 馬場遺跡ピット柱状図



第24図 馬場遺跡ピット位置図

6 斎藤館跡

(1) 調査日 令和4年7月15日

(2) 調査場所 南陽市宮内字富貴田一 4545-1、4545-2 の一部、4545-3 の一部

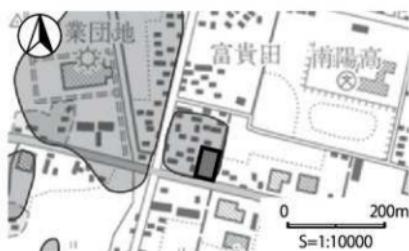
(3) 調査原因 診療所建替工事（93条届）

(4) 調査方法及び内容

当該地は斎藤館跡の範囲に含まれることから、工事の際に立会いを行い遺跡の有無を確認した。

(5) 結果

遺構・遺物は確認されなかった。



第25図 斎藤館跡調査位置図



第26図 斎藤館跡柱状図



調査区全景（東より）



土層断面（南より）



第27図 斎藤館跡ピット位置図

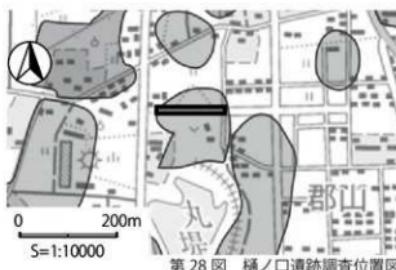
7 檻ノ口遺跡

- (1) 調査日 令和4年7月27日
- (2) 調査場所 南陽市若狭郷屋字玉ノ木
- (3) 調査原因 市道赤湯駅西若狭郷屋線整備（94条通知）
- (4) 調査方法及び内容

当該地は檻ノ口遺跡の範囲に含まれることから試掘調査を行うものとした。調査対象範囲1670m²に1m×15mの試掘溝2ヶ所、1m×20mの試掘溝を1ヶ所設定し調査を実施した。

(5) 結果

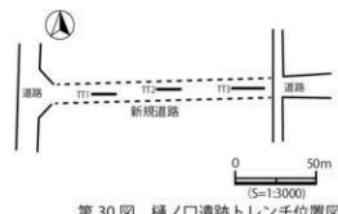
TT1の第1層から土師器片が4点が、TT2では表層と第1層から土器片が237点が、TT3では第1層の土師器片が9点出土した。土師器は古墳時代前期の二重口縁壺、甕、小型丸底鉢、土垂とみられる。



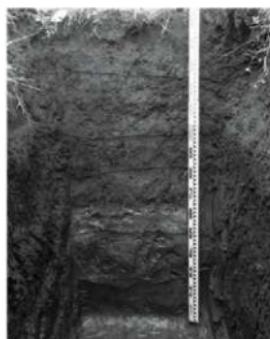
第28図 檻ノ口遺跡調査位置図



第29図 檻ノ口遺跡トレンチ柱状図



第30図 檻ノ口遺跡トレンチ位置図



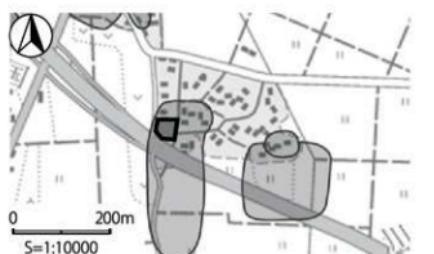
8 東畠A遺跡

- (1) 調査日 令和4年9月8日
- (2) 調査場所 南陽市俎柳町東畠一 1102、1101-1
- (3) 調査原因 個人住宅建替（93条届）
- (4) 調査方法及び内容

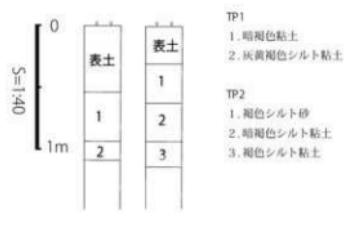
当該地は東畠A遺跡の範囲にかかることから試掘調査を行うものとした。調査対象範囲1212.13m²に対して、1×1mの試掘穴を2ヶ所設定し調査を実施した。

(5) 結果

遺構は確認されなかった。TP1の第1層から管玉が1点出土した。



第31図 東畠A遺跡調査位置図



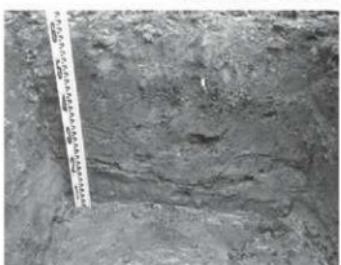
第32図 東畠A遺跡ピット柱状図



TP1 土層断面 (西より)



第33図 東畠A遺跡ピット位置図



TP2 土層断面 (西より)

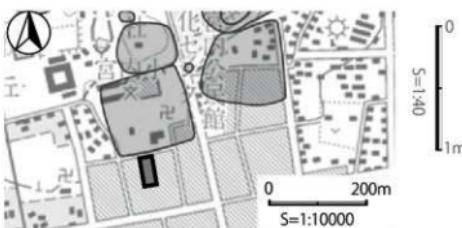
9 宮内小学校敷地内遺跡隣地

- (1) 調査日 令和4年9月13日
- (2) 調査場所 南陽市宮内字田町二 3436-4 外
- (3) 調査原因 宅地造成工事
- (4) 調査方法及び内容

当該地は宮内小学校敷地内遺跡の隣地であることから試掘調査を行うものとした。調査対象範囲 1274.56m²に対して、1 m × 2.5 m の試掘溝を 1ヶ所、1 m × 10 m の試掘溝を 2ヶ所設定調査を実施した。

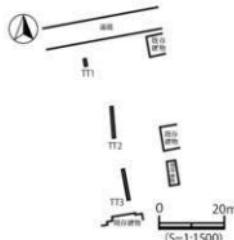
(5) 結 果

遺物・遺構は確認されなかった。



第34図 宮内小学校敷地内遺跡隣地調査位置図

	TT1	TT2	TT3
表土	1. 灰黄褐色シルト粘土	1. 褐色砂質粘土	1. 褐色砂質粘土
1	2. 黒褐色砂質粘土(明褐色土 蓋入)	2. 灰黃褐色砂質粘土	2. 灰黃褐色砂質粘土
2	3. 青灰色砂質シルト	3. 明黃褐色砂質シルト	3. 明黃褐色砂質シルト
3	4. 青灰色シルト砂	4. 黒褐色シルト	4. 黑褐色砂質粘土
4	5. 細灰褐色シルト粘土	5. 灰黃褐色シルト粘土	5. 灰黃褐色シルト粘土
5			



第35図 宮内小学校敷地内遺跡隣地トレンチ柱状図

第36図 宮内小学校敷地内遺跡隣地トレンチ位置図



調査区全景 (北東より)



TT1 完掘状況 (南より)



TT3 完掘状況 (北より)

10 長岡南森遺跡

(1) 調査日 令和4年6月23日

(2) 調査場所 南陽市長岡字西田 1796-1、字南森西 1752

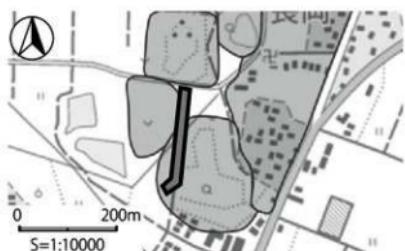
(3) 調査原因 市道稻荷森古墳南線整備

(4) 調査方法及び内容

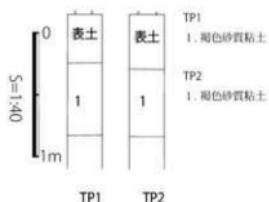
長岡南森遺跡の範囲に含まれることから、遺跡内容を把握するため試掘調査を行うものとした。1m×1mの試掘穴を2ヶ所設定し調査を実施した。

(5) 結果

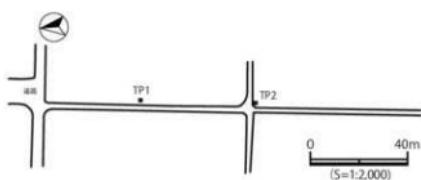
遺物・遺構は確認されなかった。



第37図 長岡南森遺跡調査位置図



第38図 長岡南森遺跡ピット柱状図



第39図 長岡南森遺跡ピット位置図



TP1 土層断面 (南より)



TP2 土層断面 (南より)

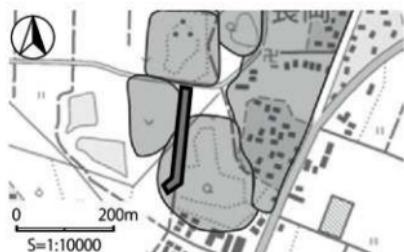
11 長岡南森遺跡

- (1) 調査日 令和4年10月20日
- (2) 調査場所 南陽市長岡字南森西1752
- (3) 調査原因 市道稲荷森古墳南線整備
- (4) 調査方法及び内容

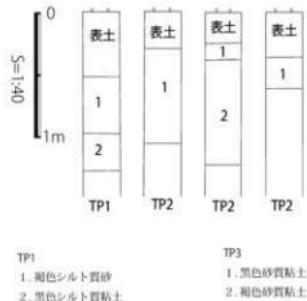
長岡南森遺跡の範囲に含まれることから、遺跡内容を把握するため試掘調査を行うものとした。1m×1mの試掘穴を3ヶ所、1m×2mの試掘溝を1ヶ所設定し調査を実施した。

(5) 結果

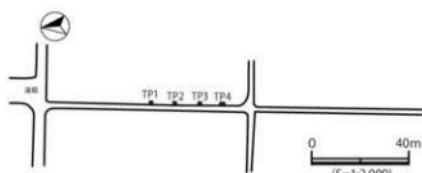
遺物（土器粒を除く）・遺構は確認されなかった。



第40図 長岡南森遺跡調査位置図



第41図 長岡南森遺跡ピット柱状図



第42図 長岡南森遺跡ピット位置図



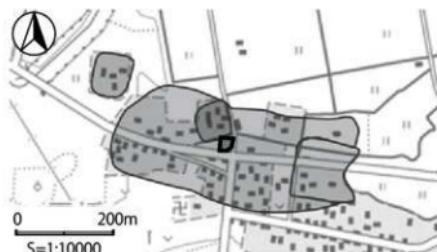
12 植木場一遺跡

- (1) 調査日 令和4年10月25日
- (2) 調査場所 南陽市露橋字地蔵堂 355-1
- (3) 調査原因 カーポート建設(93条届)
- (4) 調査方法及び内容

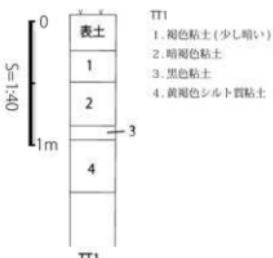
当該地は植木場一遺跡に含まれることから試掘調査を行うものとした。調査対象の範囲となる267.47m²について、2m×11mの試掘溝を1ヶ所設定した。

(5) 結果

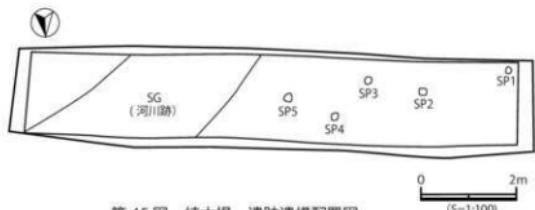
遺物は主に第3層から須恵器片が4点、土師器片が1点出土した。遺構は柱穴5基を確認したが覆土から遺物は出土しなかったため年代は不明である。



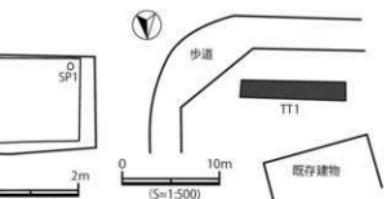
第43図 植木場一遺跡調査位置図



第44図 植木場一遺跡トレンチ柱状図



第45図 植木場一遺跡遺構配置図



第46図 植木場一遺跡トレンチ位置図



調査区全景(東より)



TT1 土層断面(東より)

IV 立会調査

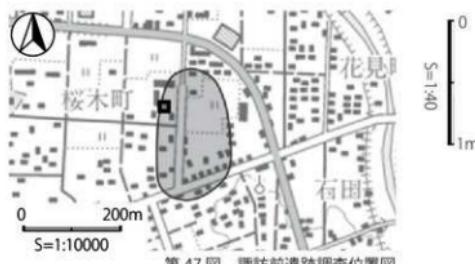
1 講訪前遺跡

- (1) 調査日 令和4年3月23日～24日
- (2) 調査場所 南陽市三間通字諏訪西383-1、384外5筆
- (3) 調査原因 倉庫搬出入口建設(93条届)
- (4) 調査方法及び内容

当該地は諏訪前遺跡の範囲にかかることから、深掘りを行う基礎工事の際に立会いを行い、遺跡の有無を確認した。

(5) 結果

遺構・遺物は確認されず、遺跡への影響は少ないと判断した。



第48図 謏訪前遺跡柱状図



調査区全景（東より）



土層断面（南より）

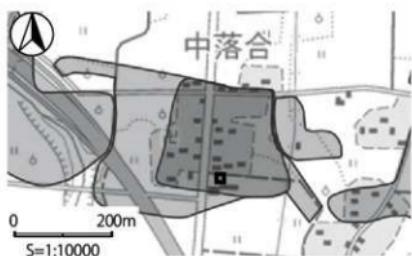
2 中落合館跡

- (1) 調査日 令和4年5月10日
- (2) 調査場所 南陽市中落合635地内
- (3) 調査原因 電柱建替工事
- (4) 調査方法及び内容

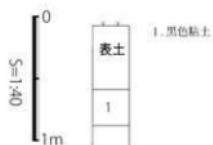
当該地は中落合館跡の範囲に含まれることから、工事の際に立会いを行い遺跡の有無を確認した。

(5) 結 果

遺構・遺物は確認されなかった。



第49図 中落合館跡調査位置図



第50図 中落合館跡柱状図



調査区全景（西より）



土層状況

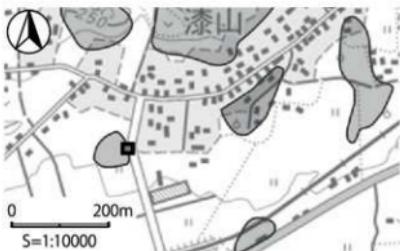
3 前田遺跡

- (1) 調査日 令和4年6月15日
- (2) 調査場所 南陽市羽付311地内
- (3) 調査原因 電柱建替工事(93条届)
- (4) 調査方法及び内容

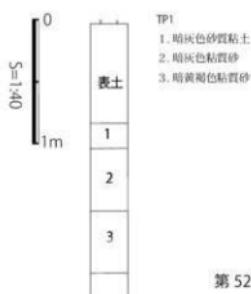
当該地は前田遺跡の範囲に含まれることから、工事の際に立会いを行い遺跡の有無を確認した。

(5) 結 果

遺構・遺物は確認されなかった。



第51図 前田遺跡調査位置図



第52図 前田遺跡柱状図



調査区全景(西より)



掘削状況



土層状況

4 長岡山東遺跡

(1) 調査日 令和4年6月14日～7月13日

(2) 調査場所 南陽市長岡字北田 580 外

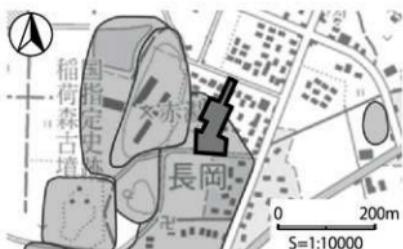
(3) 調査原因 宅地造成工事(93条届)

(4) 調査方法及び内容

当該地は長岡山東遺跡の範囲に含まれることから、工事の際に立会いを行い遺跡の有無を確認した。

(5) 結果

遺構・遺物は確認されなかった。



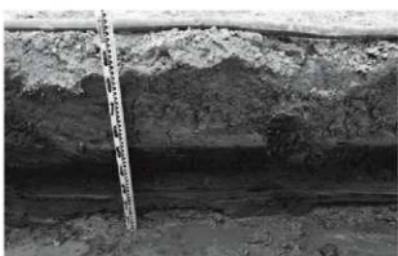
第53図 長岡山東遺跡調査位置図



第54図 長岡山東遺跡柱状図



調査区全景（南より）



北側道路西壁土層断面（南より）



調査区全景（南より）



調査区全景（北より）

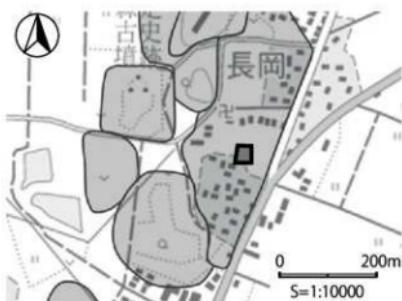
5 長岡山東遺跡

- (1) 調査日 令和4年6月16日
- (2) 調査場所 南陽市長岡字西田中南632-1
- (3) 調査原因 個人住宅建替(93条届)
- (4) 調査方法及び内容

当該地は長岡山東遺跡の範囲に含まれることから、幅1m×長1mの試掘穴1ヶ所を設定し、遺跡の有無を確認した。

(5) 結果

遺構・遺物は確認されなかった。



第56図 長岡山東遺跡柱状図



調査区全景(北より)



TP1 土層断面(東より)

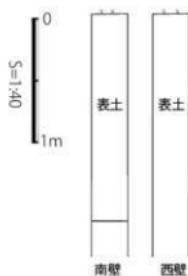
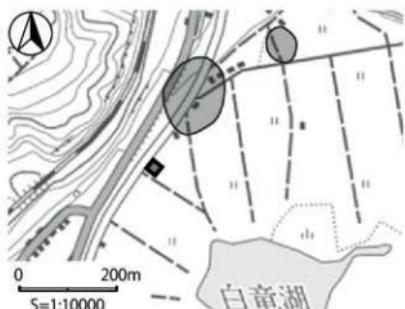
6 月ノ木B遺跡隣地

- (1) 調査日 令和4年7月14日～15日
- (2) 調査場所 南陽市赤湯字中堀南 1134-1
- (3) 調査原因 携帯基地局鉄塔建設工事
- (4) 調査方法及び内容

当該地は月ノ木B遺跡の隣地であることから、工事の際に立会いを行い遺跡の有無を確認した。

(5) 結果

遺構・遺物は確認されなかった。



第58図 月ノ木B遺跡隣地柱状図



調査区全景(北より)



南壁土層断面(北より)

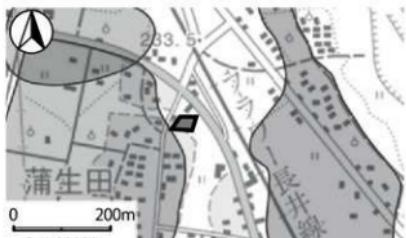
7 蒲生田館跡隣地

- (1) 調査日 令和4年8月18日
- (2) 調査場所 南陽市蒲生田字町ノ裏1846
- (3) 調査原因 個人住宅新築（93条届）
- (4) 調査方法及び内容

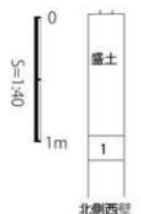
当該地は蒲生田館跡の隣地であることから、工事の際に立会いを行い遺跡の有無を確認した。

(5) 結 果

遺構・遺物は確認されなかった。



第59図 蒲生田館跡隣地調査位置図



第60図 蒲生田館跡隣地柱状図



調査区全景（南より）



土層断面（東より）

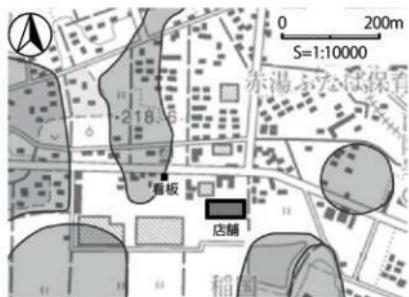
8 東六角遺跡隣地

- (1) 調査日 令和4年9月9日、12日
- (2) 調査場所 南陽市郡山573、578地内
- (3) 調査原因 店舗看板設置・新規店舗建設
- (4) 調査方法及び内容

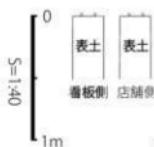
対象地は東六角遺跡の範囲に隣接することから、工事の際に立会いを行い遺跡の有無を確認する。

(5) 結果

土層は1mほどの盛土のみで、工事による影響は少ないと思われる。また、遺物・遺構は確認されなかった。



第61図 東六角遺跡隣地調査位置図



第62図 東六角遺跡隣地柱状図



調査区全景（西より）



土層断面（北より）

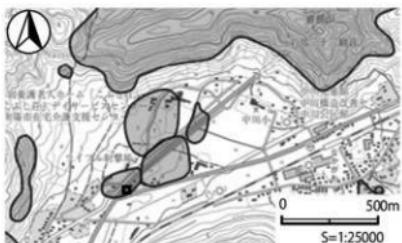
9 天矢場遺跡

- (1) 調査日 令和4年8月5日、8月9日、9月13日
- (2) 調査場所 南陽市川樋字高野 1392-1
- (3) 調査原因 携帯基地局鉄塔建設工事（93条届）
- (4) 調査方法及び内容

当該地は天矢場遺跡の範囲に含まれることから、工事の際に立会いを行い遺跡の有無を確認した。

(5) 結 果

遺構・遺物は確認されなかった。



第63図 天矢場遺跡調査位置図



第64図 天矢場遺跡柱状図



調査区全景（南より）



土層状況

10 蒲生田山古墳群

(1) 調査日 令和4年8月5日～11月11日

(2) 調査場所 南陽市上野 地内（旧ハイジアパーク内）

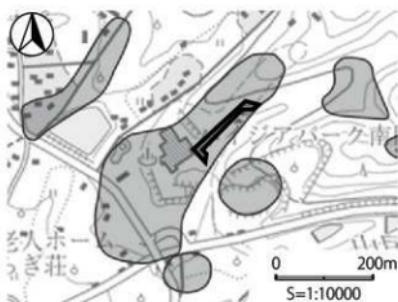
(3) 調査原因 市道ハイジアパーク線道路改良工事（94条通知）

(4) 調査方法及び内容

当該地は蒲生田山古墳群の範囲に含まれることから、遺跡内容を把握するため工事立会を行うものとした。工事範囲約1,030m²に対して、掘削時に立会調査を行った。

(5) 結果

遺構・遺物は確認されなかった。



第65図 蒲生田山古墳群調査位置図



第66図 蒲生田山古墳群柱状図



調査区全景（南西より）



蒲生田山1号墳（東より）
(手前が市道予定)

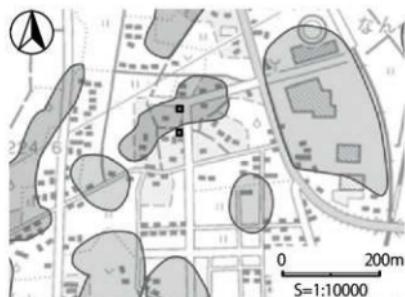
11 中屋敷遺跡

- (1) 調査日 令和4年9月13日
- (2) 調査場所 南陽市若狭郷屋字中屋敷 491-1 地内
- (3) 調査原因 電柱建替工事（93条届）
- (4) 調査方法及び内容

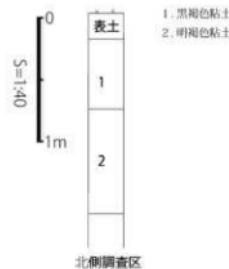
当該地は中屋敷遺跡の範囲であることから、工事の際に2ヶ所で立会いを行い遺跡の有無を確認した。

(5) 結 果

遺構・遺物は確認されなかった。



第67図 中屋敷遺跡調査位置図



第68図 中屋敷遺跡柱状図



調査区全景（東より）



西側壁面（東より）

V 中世城館等測量調査

1 調査概要と目的

(1) 調査期間 令和4年11月4日～令和5年3月8日

(2) 調査場所 南陽市下荻地内

(3) 調査目的

対象地は南陽市下荻に位置する山地で、下荻館跡とその周辺地である。下荻館、経塊山物見、小屋館、薬師山物見が周知の中世城館跡として登録されている。

今次調査では下荻館を中心に関跡の規模や正確な位置を把握することを主たる目的とし、併せて未確認の城郭遺構や鉱山跡、炭窯跡等の把握を行い、遺跡台帳を整備し、今後の調査や遺跡保護に資するため赤色立体地図等の作成を行うこととしたものである。

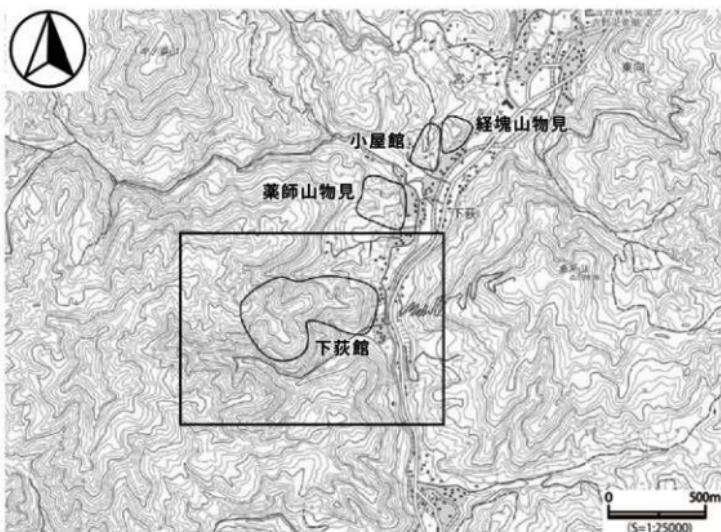
2 調査方法

調査地の現況は山林であることから、落葉後に航空レーザー測量及び現地での補助測量を実施し、赤色立体地図を元に館跡の略図を作成した。なお、略図は読み取った地形の概略図である。主たる計測範囲は下荻館を中心とした 2.1 km^2 であるが、計測範囲は可能な限り広くとることとした。

3 測量方法と経過

測量計画は、GNSS衛星配置等を考慮し、計測諸元、飛行コース、GNSS基準局の設置場所及びGNSS観測について作成し、0.5mのグリッドデータ作成を行うため $1 \text{ m} \times 1 \text{ m}$ に4点以上の計測データを取得するものとした。測量機材は、必要に応じ「公共測量作業規程の準則」に定める検定を第三者機関より受けたものを使用した。

3次元航空レーザー測量は航空レーザー計測システム及びGNSS/IMU装置を搭載した航空機を用いて実施した。航空レーザー測量データ(GNSS基準局のGNSS観測データ、航空機上のGNSS及びIMU観測データ、レーザー測距データ)を統合解析し、地表のレーザー照射位置の三次元座標を求め、調整用基準点を設定し、三次元計測データを補正した。補正後のオリジナルデータから、建物や植生等の地物を除去したグランドデータを作成し、これを基に等高線データ、赤色立体地図となる地形表現図を作成した。



注) 実際のデータ範囲は計測飛行範囲より広い

第 69 図 計測飛行範囲図

4 主な成果

下萩館及びその周辺のうち主なものを報告する。

各城館遺跡において、従来の調査では明らかでなかった遺構や配置等の確認ができた。

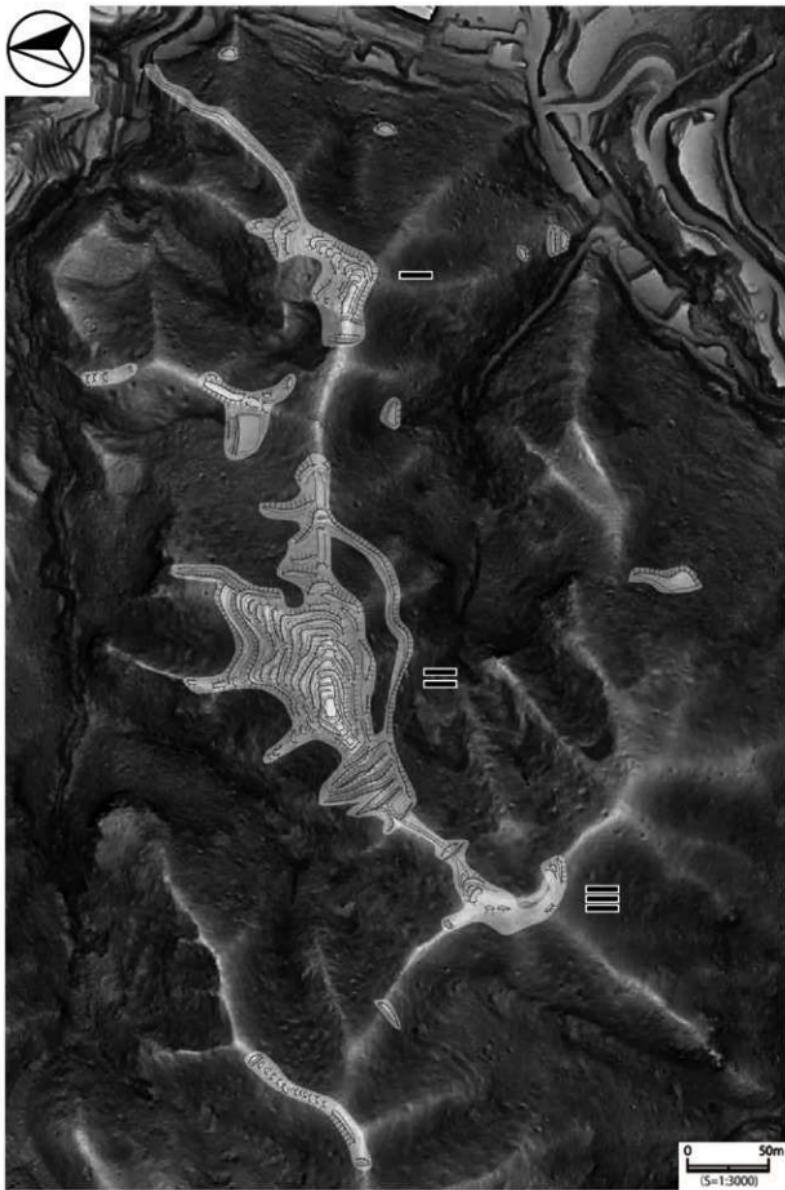
(1) 下萩館跡（第 70 図）

下萩館は吉野川右岸、下萩字館の山、字下見山、太郎字獄平に位置する山城である。平成 7 年山形県中世城館遺跡調査では、曲輪を I ~ III の 3 群に分けている。物見の役目を果たす I 群は標高約 448m、主郭にあたる II 群は標高 526 m、最も高所にあたる III 群は標高 562m で麓からの比高は約 216 m となる。I 群から III 群までは東西約 400m、II 群から III 群までは南北約 200 m を測る。

字下見山は I 群全域・II 群の南斜面・III 群の東斜面、字館の山は II 群の尾根から北・III 群の尾根から西北、太郎字獄平は III 群の南斜面を占める。

下萩館は最上領との境目となる小滝から宮内に至る小滝街道の中間地点付近に築かれており、境目の城となる小滝館に次いで規模が大きく、小滝街道を守る重要な城館であったと思われる。

今回の調査では新たに III 群の北西に階段状の曲輪群と堀切のような地形が確認されたが、この地点については今後さらに調査が必要である。

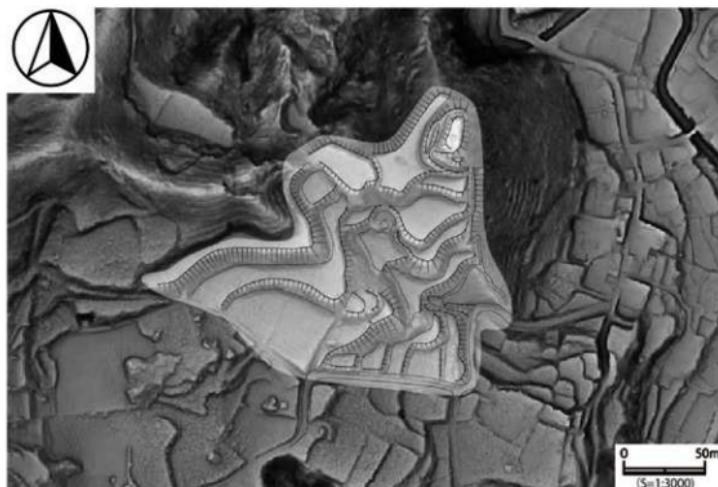


第70図 下荻館略図

(2) 薬師山物見跡（烏帽子山物見跡）（第 71 図）

薬師山物見は、吉野川右岸の下荻字烏帽子岩に位置し、下荻館の I 群の山裾から北へ約 300m の地点にあたる。下荻集落の西側の小高い山で、頂上に薬師岩、烏帽子岩と呼ばれる岩が並び、北奥に虚空蔵・薬師・弁財天の石祠がある。

主郭は北端に位置し、標高約 414m で麓からの比高は約 61m である。平成 7 年山形県中世城館遺跡調査では、曲輪群を谷を挟んで南北に分けている。主郭南西の谷部に明治期に作られた池があり、この谷の南西の曲輪を南丸としている。従来の縄張り図に比べ、主郭南側の曲輪群や谷部の形状、南丸とした曲輪等の形状が明らかになったが、現地形には後世の耕地開拓等の影響も含まれているものと思われる。



第 71 図 薬師山物見跡図

(3) 小屋館跡（第 72 図）

小屋館は、吉野川右岸の下荻字羽黒山、字上ノ前に位置し（従来は字杉ノ窪とされてきたが誤り）、下荻館の I 群の山裾から北へ約 660m の地点、龍谷山泉高院の東側にあたる。館域は字羽黒山の南半を占め、字上ノ前、羽黒山に鎮座する出羽神社の境内及び参道が含まれる。

南蔵院文書当院元来記録（南陽市史編集資料第 19 号）によれば、山裾の字上ノ前に佐藤庄司元治の末孫の佐藤源左衛門清信が弘安 3 年（1280）に住み、正応 2 年（1289）に出羽神社を創設したという。元禄 7 年（1694）、には「慶長元（五の誤りか）年ニ山形源五郎義明（光）江出馬之時、当廻小屋橋城代ニ倉加野長左右衛門、馬上五十騎ニシテ橋籠ル」とある。

主郭とされる神社境内地から通称奥の院の標高は 390 ~ 400 m、山城部の大きさは長軸約 190m、短軸約 50m を測る。

(4) 経塊山物見跡（文殊山物見跡）（第 72 図）

経塊山物見は、吉野川右岸の字羽黒山の北半に位置し（従来は字前掛とされてきたが誤り）、同じ字羽黒山にある小屋館とは字杉ノ窪の谷部を挟んで東側にあたる尾根上に立地する。山頂に文殊堂の石祠がある。

南蔵院文書（南陽市史編集資料第 19 号）の明治 2 年從行政官堂宮御尋ニ付書上控では「文殊堂 石堂二尺四面 下荻村与兵衛 地付山之内 地方東西八間・南北五間 右者慶長年中、物見武者居りて一の木戸経塊山と申候」とある。主郭の標高は 412m、麓からの比高は 66m で、小屋館の物見と考えられる。



第 72 図 小屋館・経塊山物見略図

第五次長岡南森遺跡確認調査（概報）

本報告は、文化庁の補助を受けて令和4年度に南陽市教育委員会が実施した長岡南森遺跡確認調査に関する調査報告である。

調査は、南陽市教育委員会が実施した。

出土遺物、調査記録類は報告書作成後、南陽市教育委員会が保管する。

凡　　例

調　　査　主　体　　南陽市教育委員会社会教育課埋蔵文化財係

調　　査　期　間　　令和4年5月11日から令和4年7月19日

発掘調査担当者　　社会教育課長　　山口広昭

　　　　　　調　　査　主　任　　角田朋行（課長補佐兼埋蔵文化財係長）

　　　　　　埋蔵文化財係主任　　高橋　徹

　　　　　　埋蔵文化財係会計年度任用職員　　齊藤紘輝

整理作業担当者　　埋蔵文化財係会計年度任用職員　　吉田江美子

　　　　　　埋蔵文化財係会計年度任用職員　　山田　渚

1 長岡南森遺跡確認調査委員会の構成は以下の通りである。

菊地 芳朗（福島大学行政政策学類教授）

北野 博司（東北芸術工科大学歴史遺産学科教授）

青木 敬（國學院大學文学部史学科教授）

佐藤 庄一（山形県考古学会顧問・南陽市文化財保護審議委員）

（順不同、敬称略）

2 本報告書の執筆については角田朋行が担当した。遺物写真撮影は山田渚、報告書デジタル編集・構成作業は吉田江美子・山田渚が担当した。

3 挿図の縮尺はスケールで示した。

4 本書で使用した遺構の分類記号は下記の通りである。

S D ・・・溝 S K ・・・土坑

5 写真図版は任意の縮尺で採録した。

6 調査にあたっては、土地所有者の皆様をはじめ、次の方々によるご指導、ご協力をいただいた。記して感謝申し上げる。（五十音順・敬称略）

南陽市シルバー人材センター、公益財団法人山形県埋蔵文化財センター

青木敬、卜部厚志、菊地芳朗、北野博司、佐藤庄一

7 遺跡の基準点設置は、明光技研株式会社に委託した。

I 調査の経緯と目的

第1節 調査に至る経緯

長岡南森遺跡は、南森と呼ばれる独立丘陵地に立地する。昭和53年稲荷森古墳調査団により確認された古墳時代を主とする遺跡である。近年周辺の土地開発が進み、丘陵に開発が及ぶ恐れがあることから、平成28年度に市教育委員会は遺跡の現状把握と今後の調査及び遺跡保護の基礎資料を得ることを目的に測量調査を実施した。その結果、丘陵南半に中世城館址を思わせる遺構が確認され、丘陵自体の地形も古墳の可能性について検討すべきと判断された。

稲荷森古墳との関連が考えられる重要な遺跡とされることから、遺跡の性格と内容を把握する目的で平成30年度から確認調査を実施している。令和元年度からは長岡南森遺跡確認調査委員会を設置しており、今年度は第5次確認調査となる。

第2節 調査期間と目的

今年度のトレンチ調査の総面積は152.5m²となる。

(1) 調査期間

第5次長岡南森遺跡確認調査

発掘調査期間 令和4(2022)年5月11日～令和4(2022)年7月19日

(2) 第5次確認調査の調査地

山形県南陽市長岡1618、1650-1、1661、1662、1675、1676、1704、1612、1621、1634、1635、1636、1637、1638、1709、1774、1619、1620、1639、1650-2、1650-3

(3) 第5次確認調査の目的

長岡南森遺跡の性格把握及び南森丘陵の地形とその成因の把握を目的とする。特に南森丘陵が古墳かどうかの確認については重要事項と位置づけ、調査にあたって下記の目標を設定した。

- ・丘陵の地形及び成因を把握（切土・盛土等の有無の確認）すること。

- ・從前確認されている段状地形が丘陵を巡るかど

- うかを確認すること。

- ・墳端、周溝、土跡等に相当する地形の有無を確認すること。

- ・次年度調査計画立案のための基礎データの収集及び課題の把握を行うこと。

第3節 調査方法

(1) グリッドの設定

南森丘陵の測量図を基本にグリッドを設定した。グリッドは10m×10mで丘陵南北軸を基線とし、南森丘陵の東西方向をアルファベット大

表2 グリッド数値表

杭	X	Y	H
A	-217662.008	-59334.244	217.106
B	-217652.008	-59274.244	219.639
C	-217642.008	-59294.244	220.254
D	-217622.008	-59314.244	216.293
E	-217622.008	-59284.244	219.175
F	-217602.008	-59284.244	219.974
G	-217672.008	-59324.244	217.744
H	-217632.008	-59304.244	218.397
I	-217622.008	-59264.244	216.437
J	-217582.008	-59284.244	218.393
K	-217572.508	-59294.244	216.249
L	-217732.008	-59304.244	215.035
M	-217732.008	-59284.244	216.860
N	-217672.008	-59274.244	222.246
O	-217662.008	-59284.244	221.776

文字で東から A～R に、南森丘陵の南北方向を数字で北から 1～22 とした。現地で設営した基準杭は、グリッドの西北角に配置し、13ヶ所の基準杭（A～M）を設置した。座標値は表 2 のとおりである。

（2）調査地点の設定

長岡南森遺跡確認調査委員会の指導を踏まえて調査地点を検討し、地権者の発掘承認が得られた範囲内にトレントを設定した。T 16 は地権者との協議により 2 つに分けた。

M 12-N 11 グリッドに T 14、J 11-K 13 グリッドに T 15、I 13-J 14 グリッドに T 16 a、G 12-I 14 グリッドに T 16 b、K 13-M 13 グリッドに T 17、K 14-M 14 グリッドに T 18 の計 6 地点を設定した。

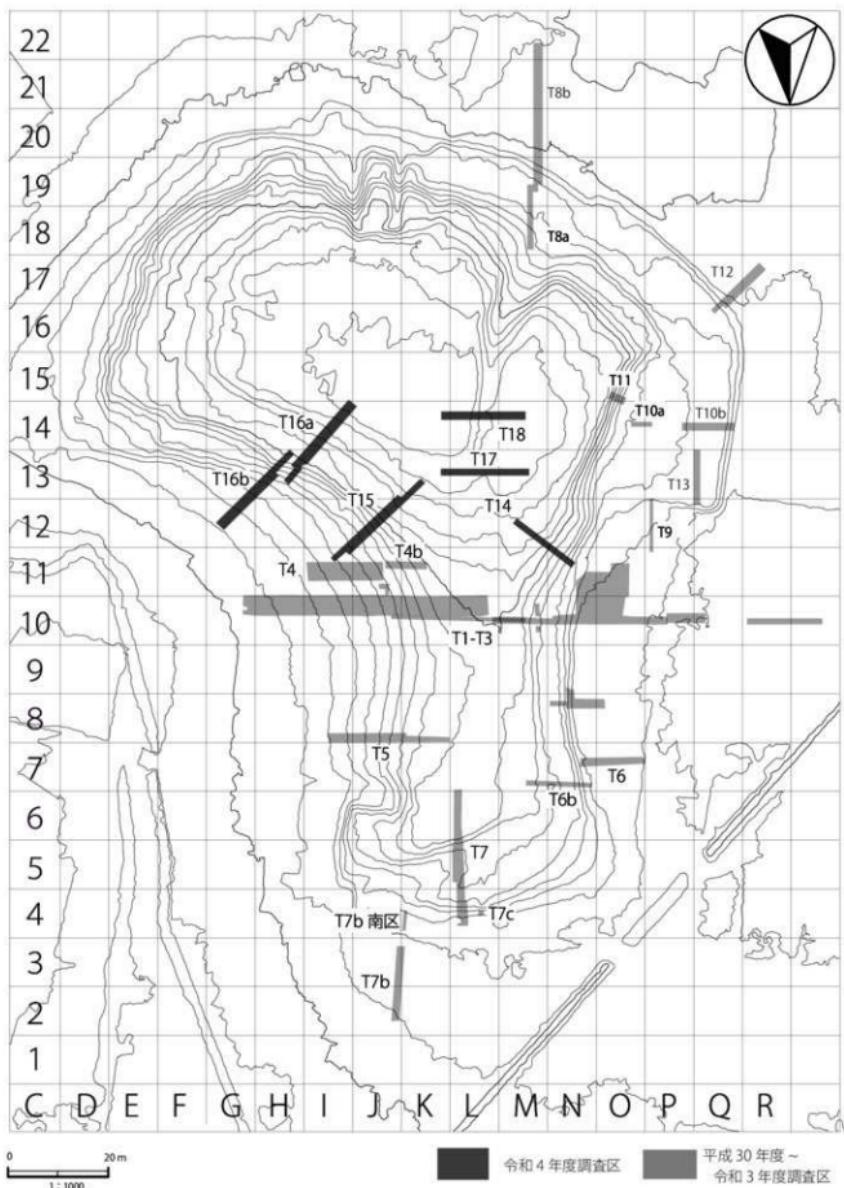
（3）発掘調査

T 14～T 18 までサブトレントによる土層確認後に面的に掘り下げる工程を層毎に繰り返し調査した。各トレントは 1 m グリッドで調査区画を設定し、作業員同士は基本的に概ね 2 m の距離を置いて作業するよう努めながら遺構検出を行った。

遺構、平面図、断面図作成は 1/10、1/20 の縮尺を基本とした。形状のわかる遺物や遺構内から検出された遺物は出土状況を図化及び写真記録をした上で取り上げた。搅乱層の遺物及び細片等の遺物は 1 m グリッドの調査区画毎に取り上げた。

第 5 次調査となる発掘は、地権者の承諾を得た上で 5 月 11 日～7 月 19 日の期間で実施した。詳細は以下の通りである。

- 5 月 11 日（水） 作業員顔合わせ。諸注意等伝達。資材搬入作業。テント設営予定地付近の草刈り・支障木除去。作業通路の草刈り。テント組み立てと器具の手入れ。各調査区の設定。T 16 周辺の草刈りと支障木を除去。
- 5 月 12 日（木） T 16 a、T 16 b 再設定。T 15、T 16 a、T 16 b、T 17 周辺の環境整備（草刈り、支障木・枯木・倒木除去、排土スペースの確保、土留め板の設置、作業用通路整備）、T 18 は神明神社の境内にかかるため両端のピンポールを立て、調査区の設定は後日再検討とする。T 16 a 掘り下げ開始（トレント外周に沿ってサブトレントを掘り下げ）。T 17～T 18 の堅掘内を検土杖により土層確認、地山までは 70～80cm。
- 5 月 13 日（金） T 16 a、T 16 b の周辺環境整備（刈った草の除去、排土スペース確保）、T 15 の幅の設定修正。T 16 a 表土掘り下げ、土壌状の盛土遺構検出（黒色層上）、盛土に礫石が多く混じる。T 16 a 盛土遺構の礫石の写真記録。T 16 a 斜面途中に横堀状の溝跡（SD 6）を検出。SD 6 以下の斜面を掘り下げ、斜面下方にあるテラス面直上で古墳時代の器台片 2 点出土（テラス面上に古墳時代の包含層、このテラスは中世館の帶曲輪ではない可能性）。
- 5 月 16 日（月） T 16 a 清掃、遺構（土壌状の盛土遺構、SD 6）の検出状況写真撮影。T 16 a 東壁サブトレント掘り下げ、東壁の壁切り。T 16 a の SD 6 堀



第 73 図 長岡南森遺跡平面図

り下げ開始、堀底道のような形状で山側に柱穴列（柵列か）を検出。T 16 a の盛土遺構南側の黒色層掘り下げ開始。T 16 a 北端を幅 1m × 長さ 3m で拡張し掘り下げ開始、表土層からは縄文土器・土師器・須恵器片出土、2 層めから器台片出土）。基準杭 N、O を設置。佐藤庄一先生現地指導。

- 5月 17 日（火） S D 6 内の柱穴列検出状況写真撮影、半裁作業、断面記録作業。T 16 a 北端・南端付近を掘り下げ、南端付近の面整理を行い柱穴群検出。T 16 a 東壁の断面検討。T 16 a 北端で縄文時代の自然堆積層が残る状況を確認。
- 5月 18 日（水） T 16 a 北端掘り下げ。T 16 a 南端付近の柱穴群検出状況写真撮影、半裁作業、断面記録、完掘作業。T 16 a 盛土状遺構の断面図作成。S D 6 内の柱穴完掘作業。T 16 b 掘り下げ開始（トレンチ外周に沿ってサブトレンチを掘り下げ）。
- 5月 19 日（木） T 16 a 北端面整理、壁切り。T 16 a 南端付近の柱穴群 S P 11 検出・半裁・図化、完掘後、南端付近の柱穴群の完掘状況写真撮影。T 16 a 壁の断面図作成。T 16 b 表土掘り下げ。
- 5月 20 日（金） T 16 b 表土掘り下げ、山裾部に溝（S D 7）を検出。T 16 a 盛土状遺構西側サブトレンチ掘り下げ、断面の検討。T 16 a 東壁・南壁図化作業。T 16 a 北端の幅を安全のため拡張した。
- 5月 23 日（月） T 16 a 盛土状遺構及びその南側の断面検討、古墳時代の柱穴群及びその上層が自然堆積層であることから南森丘陵が古墳である可能性は低く、何らかの集落遺跡と思われる。整地層があり頂部を平らにした理由については検討課題で今後は豪族居館の可能性も視野に入れて調査する方向性を確認した。T 16 a 西壁図化。T 16 b 掘り下げ、S D 7 検出作業（一番上の覆土から須恵器片出土）、テラス部～肩部で古墳時代の器台 2 点を含む土師器片多数出土（このテラスは中世の造成ではない）。
- 5月 24 日（火） T 16 a 西壁図化作業、盛土状遺構半裁作業（盛土状遺構の各層に含む遺物の確認と遺構の掘り込み面の再確認作業含む）。T 16 b 面整理、壁切り（地山直上の黒色層で縄文時代の尖底土器片出土）、肩部以南の土器群検出作業（器台脚部 3 個体有）、S D 7 検出作業及び検出状況写真撮影。
- 5月 25 日（水） T 16 a の S D 6 東壁清掃・写真記録、北壁記録。T 16 b 遺物記録、S D 7 ・ 斜面部掘り下げ。T 15 設定修正。
- 5月 26 日（木） T 16 a 盛土状遺構半裁作業、西壁北端付近の断面図作成。T 16 b の S D 7 掘り下げ・土器記録、北端付近掘り下げ、斜面部サブトレンチを地山まで掘り下げ。S D 7 から器台 1 点出土、T 16 b 肩部で 2 点目の球状土錘出土。

- 5月27日（金） 雨天につき休み、午後土層注記作業のみ実施。
- 5月30日（月） T 16 b 昨日の雨による崩落土除去。T 15 挖り下げ開始。T 16 a 西壁土層注記、盛土状遺構半裁作業完了、遺構平面図作成。T 16 b の S D 7 挖り下げ、斜面サブトレーンチ掘り下げ。T 15 で球状土錘出土。
- 5月31日（火） T 15 表土掘り下げ。T 16 a 遺構平面図作成、北壁断面図作成。T 16 b 肩部面整理。
- 6月1日（水） T 15 表土掘り下げ。T 16 a 西壁北端部の断面図作成。T 16 b 壁線引き・検討、S D 7 サブトレーンチ掘り下げ。
- 6月2日（木） T 15 北端付近掘り下げ、北壁ぎりぎりの所で段が検出されたため北側へ3m拡張する。遺物記録。壁切り。T 14 挖り下げ開始。T 16 a コンタ図作成。
- 6月3日（金） T 15 挖り下げ。T 16 a コンタ図作成。10時過ぎに雷雨接近のため本日の作業は終了とする。
- 6月6日（月） 排水・清掃作業。10時から第一回長岡南森遺跡確認調査委員会（現地指導）、T 16 a の丘陵頂部の古墳時代の遺構面・柱穴の状況やT 16 b の斜面にテラスが無いこと等から南森は古墳ではなく集落（あるいは豪族居館も視野に）を見るべきとのこと。午後は雨天のため休み。
- 6月7日（火） 雨天により現場を休みとする。午後、記録作業のみ実施。
- 6月8日（水） T 14 表土掘り下げ。T 15 拡張した所の掘り下げ、さらにS D 7との関係を調べるために北辺から1m幅で3mさらに拡張する。T 16 b の S D 7 の遺物記録。
- 6月9日（木） T 14 完掘。T 15 拡張範囲の掘り下げ、長方形の掘りこみを検出（SK 7）するも現代の溝跡等の複数の搅乱が重複しているとみられ、生きた面として把握可能なレベルまであえて下げるとしている。T 16 a 柱穴平面図・完掘後断面図作成。T 16 b の S D 7 遺物記録。T 17 挖り下げ開始、二重口縁土器出土。
- 6月10日（金） T 15 拡張範囲の掘り下げ、SK 7 の検出状況記録、南壁断面図作成。T 16 b の S D 7 挖り下げ。午前中に南陽市文化財保護審議会委員の視察。
- 6月13日（月） T 15 昨夜の大雨で崩れたケ所の整理、SK 7 の面整理、炭化物の記録、東壁図化。T 16 b の S D 7 挖り下げ。T 17 挖り下げ、遺物記録、器台出土。
- 6月14日（火） T 14 完掘写真撮影、T 15 の SK 7 炭化物記録、ベルト設定し掘り下げ開始、焼土検出、排土をフリイがけ。T 16 b の S D 7 挖り下げ、底面付近で土器片多数出土。T 17 挖り下げ、土器記録、東半部の面整理。
- 6月15日（水） T 14、T 16 a 清掃、完掘写真撮影。T 15 の SK 7 の搅乱（現代の溝跡）を先に掘り上げる。T 16 b の S D 7 遺物記録。T 17 を西へ約3m延長し掘り下げ、面整理。T 18 予定地を南へ1mずらして調査区を設定。

午前中、南陽市文化財保護協力員の視察。

- 6月 16日（木） T 14 壁図化。T 15 の S K 7 撤乱部掘り下げ。T 16 b の S D 7 遺物記録。T 17 溝跡（S D 8）検出・掘り下げ、S D 9 検出。
- 6月 17日（金） T 14 平面図・コンタ図作成。T 15 の S K 7 掘り下げ。T 17 西半部のサブトレーナー掘り下げ、面整理。
- 6月 20日（月） T 15 平面図・コンタ図作成。T 16 b の S D 7 遺物記録。T 17 面整理、S D 8・S D 9 掘り下げ、T 17 の西半部で地山上に整地層。
- 6月 21日（火） T 15 の S K 7 掘り下げ、焼土等平面図作成。T 16 b の S D 7 遺物記録、平面図・コンタ図作成。T 17 面整理、S D 8・S D 9 完掘。T 18 掘り下げ開始。
- 6月 22日（水） T 15 の S K 7 掘り下げ。T 16 b の S D 7 遺物記録・掘り下げ、平面図・コンタ図作成、雨による東壁崩落個所の整理、東壁断面図作成。
- 6月 23日（木） T 15 の S K 7 掘り下げ。T 16 a 壁写真撮影。T 16 b の S D 7 掘り下げ。T 17 の S P 1 検出・記録・半裁、各壁の線引きと検討、東壁・南壁図化。
- 6月 24日（金） T 15 の S K 7 掘り下げ。T 16 a の各壁写真撮影。T 16 b の S D 7 掘り下げ、東壁図化。T 17 南壁図化。
- 6月 27日（月） 雨天により休み排水作業
- 6月 28日（火） 排水作業。T 15 の S K 7 平面図記録。T 16 b の S D 7 掘り下げ・記録。T 17 北壁図化。T 18 遺物記録、面整理。
- 6月 29日（水） T 15 の S K 7 記録。T 16 b の S D 7 掘り下げ・記録、東壁図化。T 17 の S D 9 溝底の小礫状況確認。T 18 面整理、東端で黒色層下に小土手状の遺構を検出。
- 6月 30日（木） T 16 b の S D 7 掘り下げ・記録、西壁図化。T 18 面整理、黒色層面で遺構検出を図るが遺構なし、さらに掘り下げ。T 18 空堀底面で凝灰岩礫群検出。
- 7月 1日（金） T 15 の S K 7 撤乱による断面部の記録。T 16 b の S D 7 掘り下げ・記録。T 18 面整理と掘り下げ。午後に長岡南森遺跡確認調査委員会北野先生の現地指導、T 18 の凝灰岩礫はそばにある神明神社石畳み等の工事の残渣ではないか、T 18 で古墳時代の層が残っていたのは重要である（中世に削平されていない）とのこと。
- 7月 4日（月） 午前中に第二回長岡南森遺跡確認調査委員会の現地指導（北野先生のみ1日に実施）、古墳というより集落遺跡（豪族居館も視野に入れること）、S K 7 の十字ベルトは完掘せずに保存のため残すこと。T 15 の S K 7 掘り下げ。T 16 b 土器記録・取り上げ。T 18 掘り下げ。
- 7月 5日（火） T 15 の S K 7 平面記録、掘り下げ。T 16 b の S D 7 記録。T 18 遺物・礫群記録、掘り下げ。午後3時半頃、遠雷近づくため作業中止。

- 7月6日（水） 全体の清掃・環境整備。T 15 の S K 7 挖り下げ、棒状炭化物記録・取り上げ。T 16 b 西壁・北壁図化。T 18 遺物記録。午後に現地説明会を開催。
- 7月7日（木） T 15 の S K 7 挖り下げ。T 16 a の土層再検討。T 18 挖り下げ、土器記録・取り上げ。
- 7月8日（金） T 15 の S K 7 挖り下げ。T 16 b 写真撮影、東壁図化。T 18 挖り下げ。
- 7月11日（月） T 15 の S K 7 ベルト壁の線引き・記録。T 17 写真撮影。T 18 挖り下げ、土器記録。
- 7月12日（火） T 15 の S K 7 壁図面作成、平面図作成、完掘写真撮影。T 18 平面図作成、壁切り作業。
- 7月13日（水） T 16 a、T 17 補足写真撮影。T 18 南壁・北壁図化、平面図作成。
- 7月14日（木） T 15 の S K 7 レベル記録。T 18 完掘写真撮影。撤収。
- 7月15日（金） 理め戻し作業
- 7月19日（火） 理め戻し作業。調査終了。

II 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

南陽市は山形県南部の米沢盆地北東部にあたり、北緯 $38^{\circ} 1'11'' \sim 38^{\circ} 13'25''$ 、東経 $140^{\circ} 14'11'' \sim 140^{\circ} 14'17''$ に位置する。市域の南北の長さは約 22.6km、東西は約 14.8km で、面積は約 160.70km²である。

市域北部は山地で、最北端には白鷹山がそびえる。市域南部は宮内扇状地で、その東には低湿地帯として知られる大谷地が広がる。宮内扇状地の扇頂から宮内地区を南流した吉野川は、東南の赤湯地区に向かって緩やかに流れを変えた後、高畠町との境にあたる大谷地南部で急に西に向きを変えて屋代川と合流し、市域南端で最上川に流れ込む。長岡南森遺跡の立地する丘陵は大谷地西端にあたり、吉野川は丘陵の東方から南方を流れる。

長岡南森遺跡の所在地は南陽市長岡字南森、字南森西、字清水尻、字西田中南、字西田、俎柳字六百刈である。南森丘陵の主要地番は長岡字南森 1650 番地の 1 である。

長岡南森遺跡は JR 赤湯駅から南東約 1.2km、国指定史跡稻荷森古墳の南東約 130 m の場所に位置する。遺跡の東には国道 399 号線が通り、遺跡と国道の間に長岡地区の集落が広がる。近年、南森丘陵隣接地の宅地化が進み、特に丘陵西側の開発が進んでいる。丘陵北半部は主に果樹園や畑地として利用されていたが休耕地が増えている。丘陵南半部は林である。集落の薪山として利用され、林の中に失止八幡宮、神明神社、近世墓地がある。寛政九（1797）年絵図（米沢市立図書館）には森が描かれ、そこに八幡、神明と書かれている。

第2節 周辺の歴史的環境

長岡南森遺跡周辺は長い歴史の中で人々に豊かな自然の恵みを与えた大谷地に面した洪積世

の台地の一部であり、これらの地域ではその生活の様子がうかがえる遺跡が数多く、また旧石器～縄文～古墳～古代～中世と長期にわたる遺構や遺物が確認されている。

縄文時代の遺跡は大谷地周辺に多く分布し、中でも長岡南森遺跡から東側 1.5km先では、低湿地の集落遺跡である押出遺跡が確認されている。

弥生時代の代表的な遺跡としては、弥生中期の墓跡である百刈田遺跡や、石包丁が出土した萩生田遺跡がある。

古墳時代の遺跡としては長岡山遺跡、長岡山東遺跡があり、全長 96 mの前方後円墳である稲荷森古墳、長岡山遺跡の方形周溝墓群が確認されている。

古代の遺跡では、南森丘陵の北西約 600 m に位置する矢ノ目館跡からは道路跡が、長岡山遺跡からは円面硯や墨書き土器など官衙等の存在をうかがわせる遺物も出土している。

中世の遺跡では、長岡山丘陵上に湯野目氏が居住したと伝わる長岡館跡があり、南森丘陵の南には内城館跡、鶴ノ木館跡がある。

III 調査の概要

第1節 現況地形の把握

第 1 ~ 3 次確認調査の調査地とした丘陵北半部は南北長約 75 m、上から見ると南北に長い長方形に近い地形である。尾根頂は概ね平坦で、西側斜面には標高 218 m付近に帯状に幅 4.5 ~ 5.5 m の段状の地形が見られる。

東側斜面は旧葡萄園の緩傾斜地である。現状では斜面に段は全く見られない。地権者からの聞き取りで、段を昭和 40 年代に重機で均した時の変更状況や、丘陵北東角付近から南に向かって部分的に段状地形が残っていたことを伺った。

第 4 、 5 次確認調査の調査地は丘陵南半部である。東西長約 131 m、南北長約 78 m、上から見ると東西に長い隅丸の長方形に近い地形である。

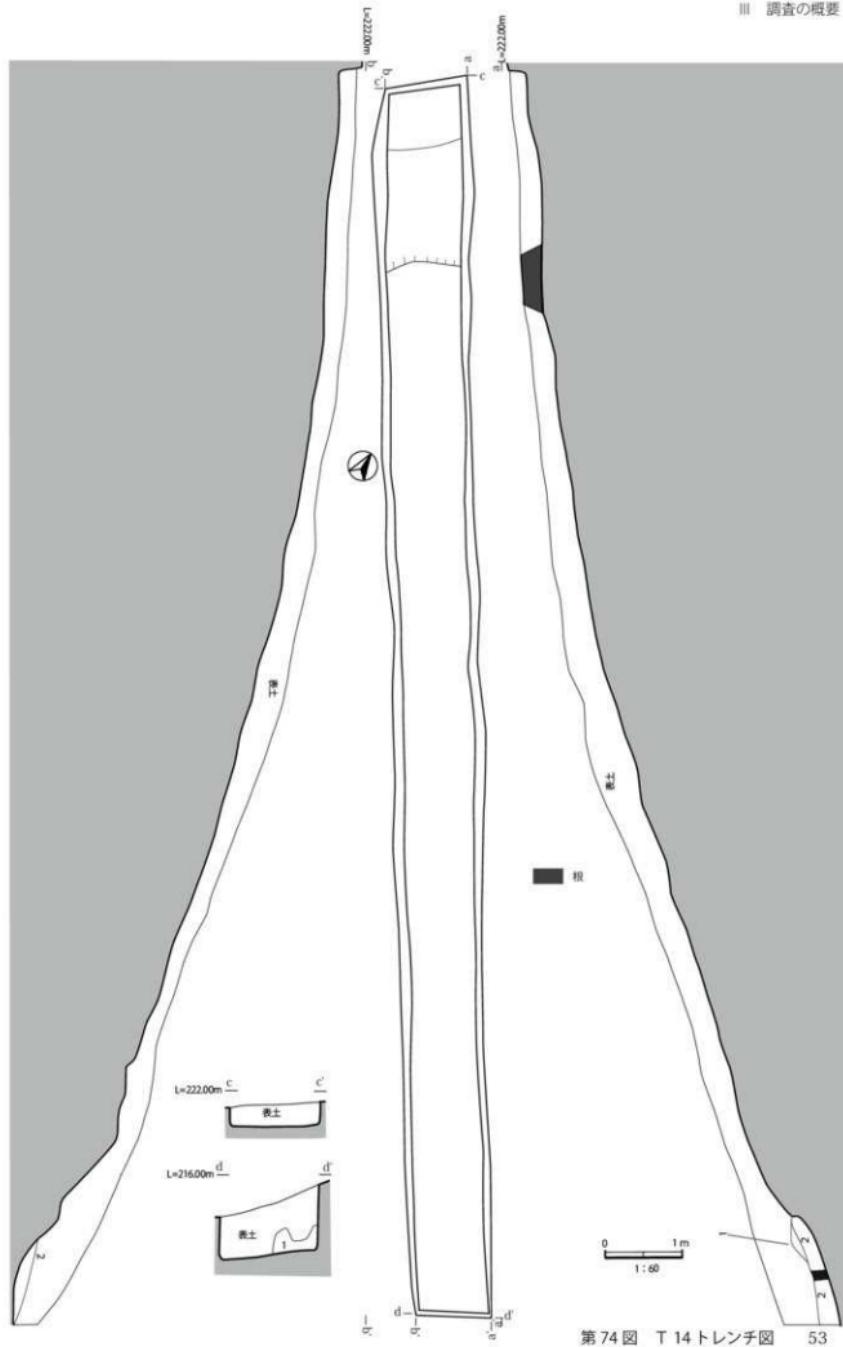
頂部は概ね平坦であるが、西よりの所に南北方向の堀切りがあり、その西に神明神社がある。堀切りの東には土壘状の高まりが残り、そのさらに東側に八幡神社がある。また南斜面の肩に近い位置には古墓地が広がる。赤色立体地図を見ると、この一帯は一見すると中世館跡のように見え、長方形の主郭状の地形とそれを取り巻く帶曲輪状の段を数段確認できる。南斜面の裾には戦時中の防空壕跡といわれる地形変更跡が残る。南斜面裾から東斜面裾付近は字清水尻でかつては溜池が存在していた。

第2節 第 14 トレンチ (T 14)

T 14 は丘陵南半部の西斜面、M 12- N 11 グリッドに設定した。幅 1 m × 長さ 14.5 m のトレンチである。

(1) 地形

表層直下が地山層である。斜面の下部では人為的な掘削による段状地形が検出された。調査



第74図 T 14 トレンチ図

面積は 14.5m²である。

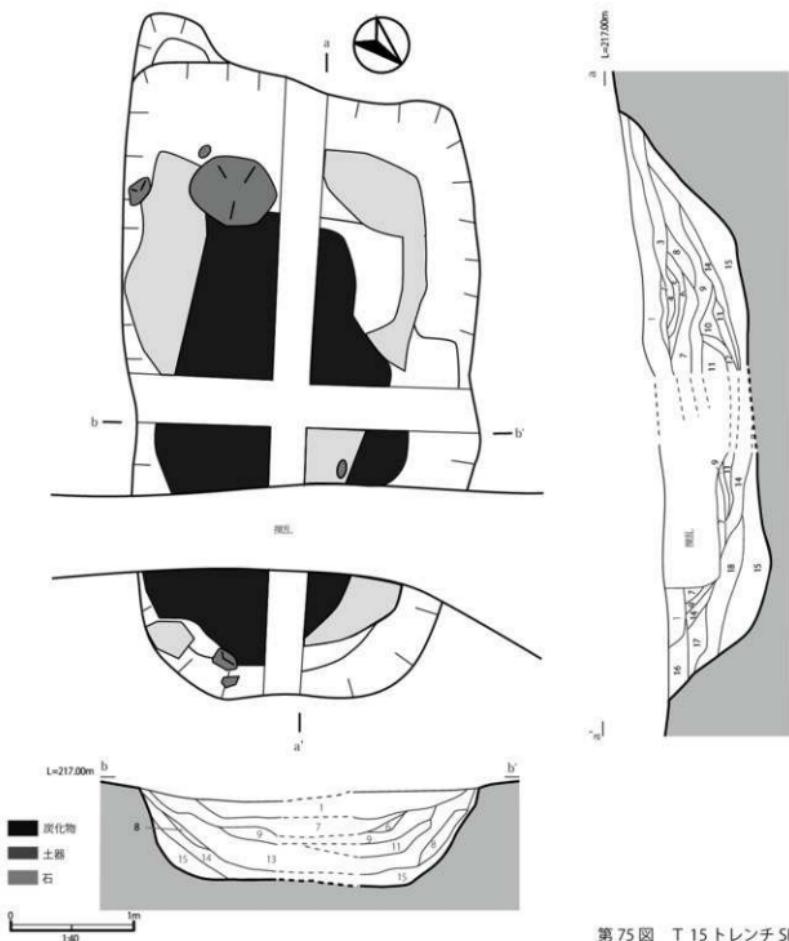
(2) 遺構

第1トレンチで検出されている段状地形からの続きとみられる、地山を掘削した段状地形が検出された。段状地形に伴う遺物がないため造成時期は不明である。

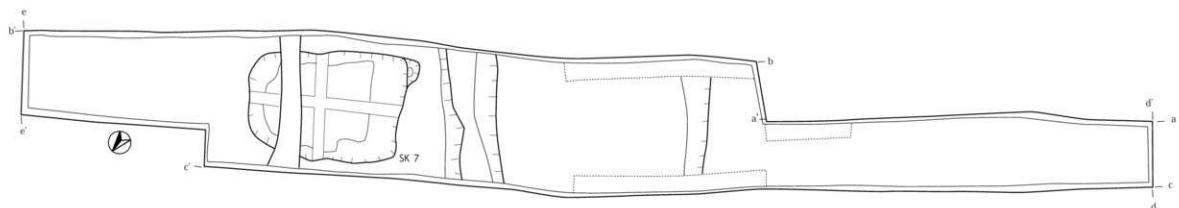
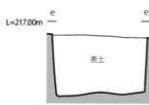
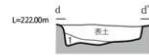
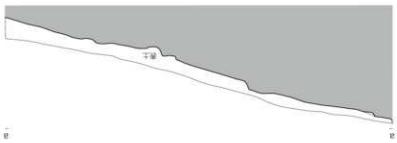
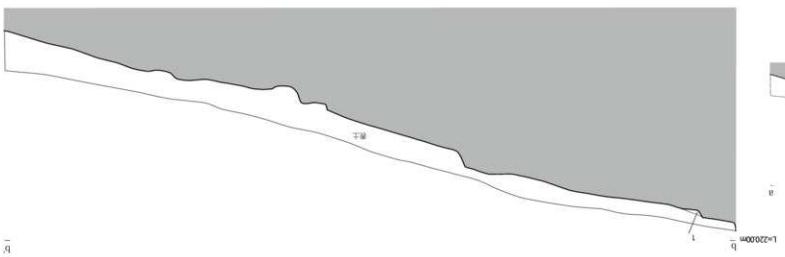
(3) 遺物の出土状況

遺物は土師器、須恵器である。表層から出土した。

第3節 第15トレンチ（T 15）

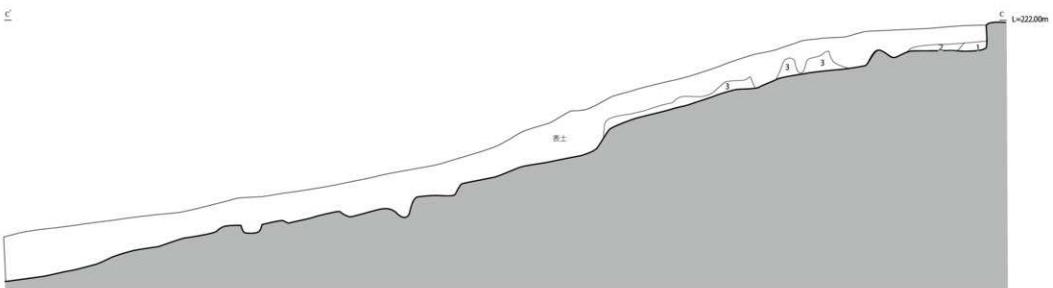


第75図 T 15トレンチ SK 7図



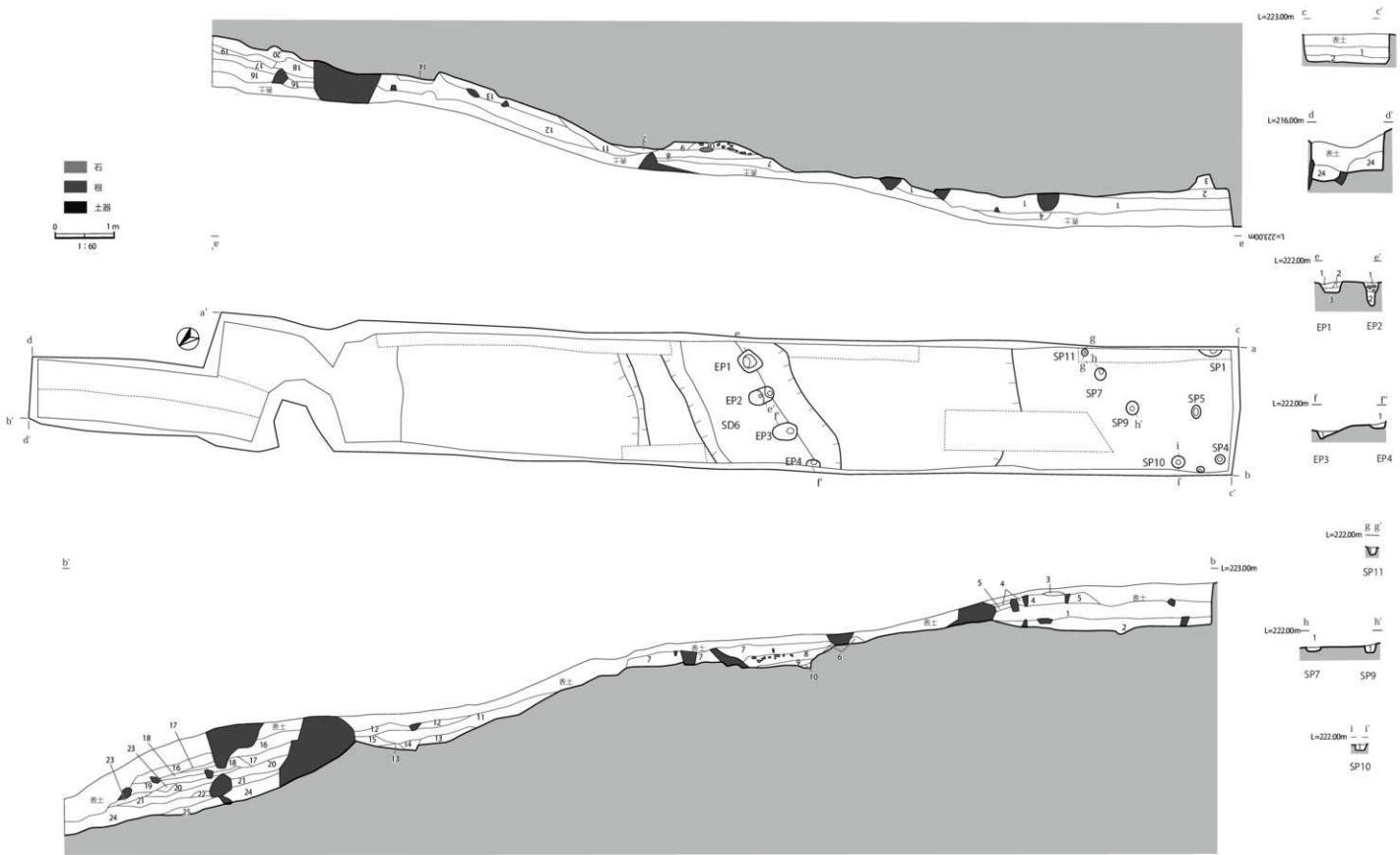
T14a-a' b-b'
1. 10YR2/3 黒褐色砂質粘土

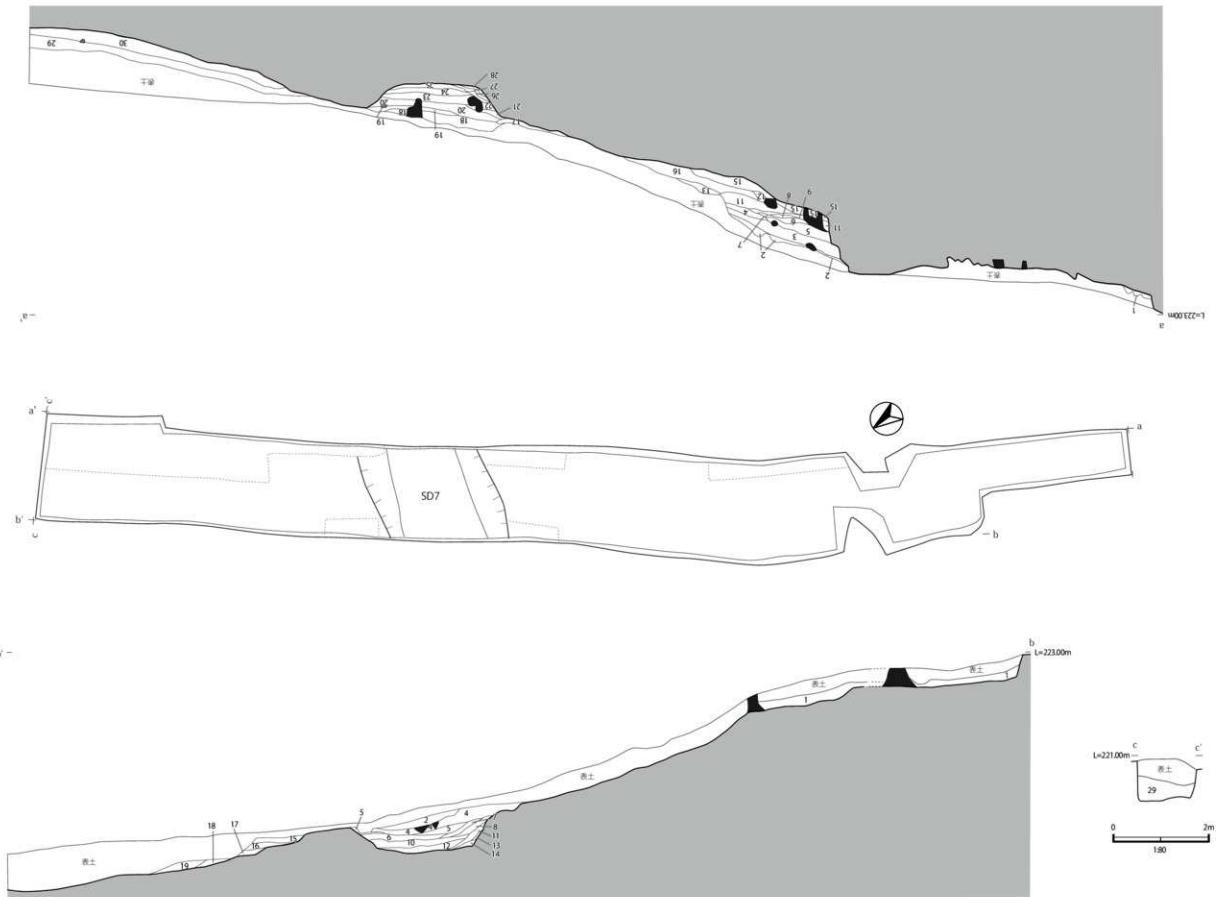
- T14b 7 a-a' b-b'
1. 10YR2/2 黑褐色砂質粘土
2. 10YR2/1 黑色シルト粘土
3. 10YR2/1 黑色シルト粘土
4. 10YR2/1 黑色シルト粘土
5. 10YR1.7/1 黑色シルト粘土
6. 10YR2/1 黑色シルト粘土
7. 10YR2/2 黑褐色粘土 炭化物多量混入
8. 10YR2/3 黑褐色砂質粘土
9. 10YR2/3 黑褐色砂質粘土
10. 10YR4/4 褐色砂質粘土
11. 10YR2/2 黑褐色砂質粘土
12. 10YR2/2 黑褐色シルト粘土
13. 10YR2/2 黑褐色シルト粘土
14. 10YR2/2 黑褐色シルト粘土
15. 10YR3/2 黑褐色シルト粘土
16. 10YR3/2 黑褐色砂質粘土
17. 10YR1.7/1 黑色砂質粘土
18. 10YR2/3 黑褐色砂質粘土



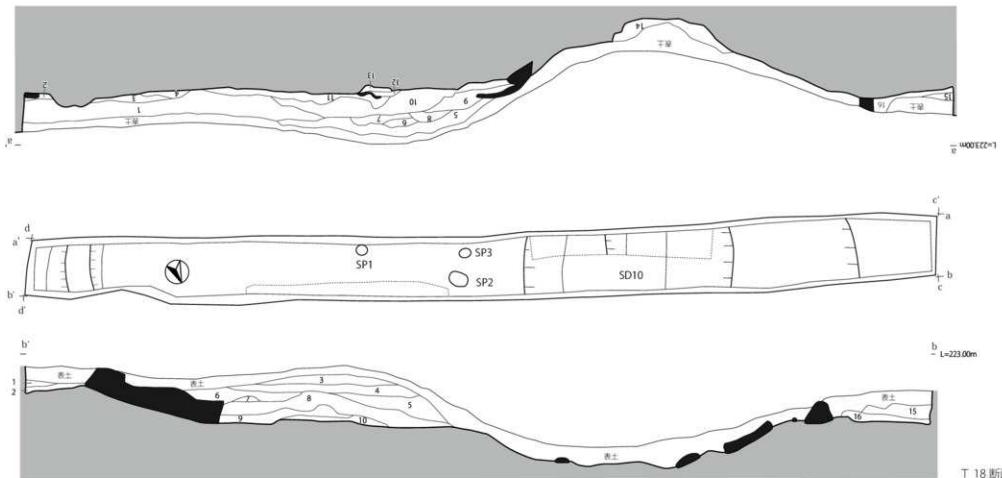
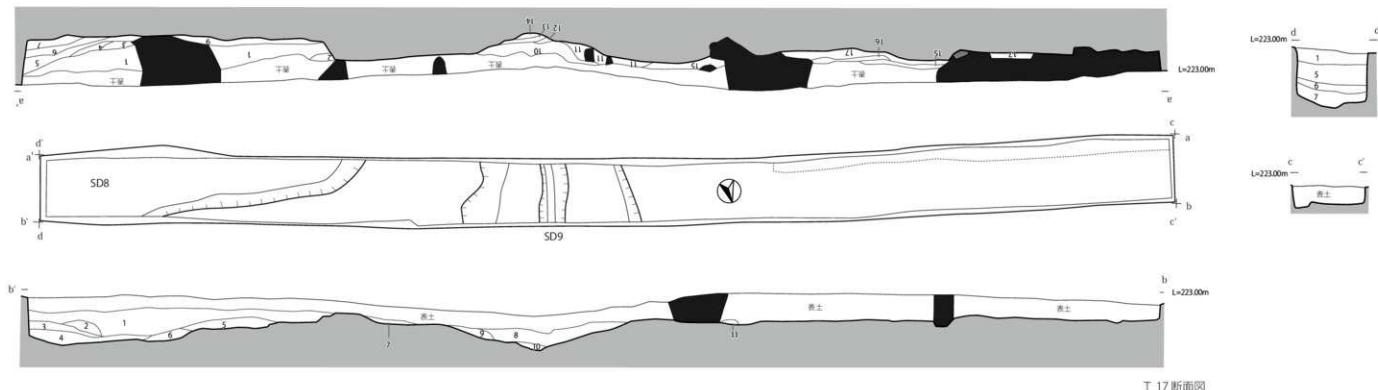
- T15a-a' b-b'
1. 10YR2/1 黑色砂質粘土
2. 10YR2/2 褐色砂質粘土
3. 10YR3/2 黑褐色砂質粘土

第76図 T 15トレンチ図





第78図 T 16b トレンチ図



第79図 T 17・T 18 トレンチ図

- | T16a (a'-b'-c'-d') | | | |
|----------------------|---------|------|-----------------------------|
| 1. 10YR2/3 黑褐色沙質粘土 | 土器混入 | | 9. 10YR2/2 黑褐色沙質粘土 |
| 2. 10YR1.7/1 黑褐色沙質粘土 | 土器混入 | | 10. 10YR3/1 黑褐色沙質粘土 |
| 3. 10YR2/2 黑褐色沙質粘土 | | | 11. 10YR2/1 黑色少粘土 |
| 4. 10YR2/3 黑褐色沙質粘土 | 粘性弱 | | 12. 10YR3/1 黑褐色沙質粘土 |
| 5. 10YR2/2 黑褐色少粘土 | | | 13. 7.5YR2/2 黑褐色沙質粘土 |
| 6. 10YR3/3 暗褐色沙質粘土 | 礫混入 | | 14. 10YR3/2 黑褐色沙質粘土 |
| 7. 10YR2/3 黑褐色沙質粘土 | 粘性弱 | | 15. 10YR2/1 黑色少粘土 |
| 8. 10YR3/2 黑褐色沙質粘土 | 礫混入 | | 16. 10YR3/2 黑褐色沙質粘土 |
| 9. 10YR2/3 黑褐色沙質粘土 | 礫混入 | | 17. 10YR2/1 黑色砂质粘土 粒砂少量混入 |
| 10. 10YR2/3 黑褐色沙質粘土 | 一部帶多量混入 | | 18. 10YR2/2 黑褐色沙質粘土 |
| 11. 10YR3/2 黑褐色沙質粘土 | かたくしまる | | 19. 10YR2/1 黑色沙質粘土 粒砂微量混入 |
| 12. 10YR3/3 暗褐色沙質粘土 | かたくしまる | | 20. 10YR1/2 黑褐色沙質粘土 |
| 13. 10YR2/3 黑褐色沙質粘土 | | | 21. 10YR2/1 黑色沙質粘土 粒砂少量混入 |
| 14. 10YR2/2 黑褐色沙質粘土 | 少々礫混入 | | 22. 10YR1.7/1 黑色沙質粘土 粒砂少粘混入 |
| 15. 10YR2/3 黑褐色沙質粘土 | 礫混入 | | 23. 10YR2/1 黑色沙質粘土 土器混入 |
| 16. 10YR2/2 黑褐色沙質粘土 | 少々礫混入 | | 24. 10YR3/1 黑褐色沙質粘土 |
| 17. 10YR2/3 黑褐色沙質粘土 | 少々礫混入 | | 25. 7.5YR2/1 黑褐色沙質粘土 |
| 18. 10YR2/1 黑色沙質粘土 | 土器混入 | | 26. 10YR3/2 黑褐色沙質粘土 粒砂混入 |
| 19. 10YR3/2 黑褐色沙質粘土 | 少々礫混入 | | 27. 10YR1.7/1 黑色沙質粘土 |
| 20. 10YR3/3 暗褐色沙質粘土 | | | 28. 10YR3/1 黑褐色沙質粘土 |
| 21. 10YR3/2 黑褐色沙質粘土 | 礫 | 土器混入 | 29. 10YR2/2 黑褐色沙質粘土 |
| | | | 30. 10YR2/1 黑褐色沙質粘土 粒砂混入 |

T16a.FB1 (a-a')

1. 7.5YR2/2 黑褐色砂質粘土
 2. 7.5YR3/1 黑褐色砂質粘土

- 116a EP2 (e-e)

第六章 計算機

- 116a EP3 (F-T)

П6а ЕР6 (f-f)

- #### 1. 10YR3/3 暗褐色砂質黏土

T16a SP11 (g-g')

- ### 1. 10YR2/1 黑色砂質粘土

T16a SP7 (h-h')

- ### 1. 10YR2/1 黑色粘土

T16a SP9 (h-h)

- ### 1. 10YR2/2 黑褐色粘土

1168 SPB (PH)

1. 101822 黑梅巴沙貝格上

1.10MPa/g 電解液

1. 10YR5/2 黑褐色砂質粘土 粗沙少々混入
 2. 10YR2/2 黑褐色砂質粘土 粗沙少々混入
 3. 10YR1.7/1 黑色砂質粘土 土器片混入
 4. 10YR3/3 黑褐色砂質粘土
 5. 10YR1.7/1 黑色砂質粘土
 6. 10YR3/1 黑褐色砂質粘土 粗沙少々混入
 7. 10YR2/1 黑色砂質粘土 粗沙少々混入
 8. 10YR2/2 黑褐色砂質粘土 粗沙少々混入

9. 10YR2/2 黑褐色砂質土

- 10. I0YR3/1 黑褐色沙質黏土
 - 11. I0YR2/1 黑色沙土
 - 12. I0YR3/1 黑褐色沙質黏土 褶少量混入
 - 13. 7.5YR2/2 黑褐色沙質黏土
 - 14. I0YR3/2 黑褐色沙質黏土
 - 15. I0YR2/1 黑色沙土黏土
 - 16. I0YR3/2 黑兩色沙質黏土
 - 17. I0YR2/1 黑色沙質黏土 粗砂少量混入
 - 18. I0YR2/2 黑褐色沙質黏土 褶少量混入
 - 19. I0YR2/1 黑褐色沙質黏土 粗砂微量混入
 - 20. I0YR2/1 黑色沙質黏土
 - 21. I0YR2/1 黑色沙質黏土 粗砂少量混入
 - 22. I0YR1.7/1 黑色沙質黏土 和砂少量混入
 - 23. I0YR2/1 黑色沙質黏土 土體部分混入
 - 24. I0YR3/1 黑褐色沙質黏土
 - 25. 7.5YR2/1 黑褐色沙質黏土
 - 26. I0YR3/2 黑褐色沙質黏土 褶砂混入
 - 27. I0YR1.7/1 黑色沙質黏土
 - 28. I0YR3/1 黑褐色沙質黏土
 - 29. I0YR2/2 黑褐色沙質黏土
 - 30. I0YR2/2 黑褐色沙質黏土 和砂混入

T17(a-a' b-b' c-c' d-d')

1. 10YR3/2 黒褐色砂質粘土
 2. 10YR4/2 黄褐色砂質粘土 粗砂混入
 3. 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 粗砂混入
 4. 10YR3/2 黑褐色砂質粘土
 5. 10YR3/2 黑褐色砂質粘土 粗砂混入
 6. 10YR3/4 暗褐色シルト粘土 混凝土
 7. 10YR3/2 黑褐色砂質粘土
 8. 10YR4/2 黄褐色シルト粘土
 9. 10YR3/2 黑褐色粘土
 10. 10YR2/3 黑褐色砂質粘土
 11. 10YR3/4 暗褐色砂質粘土
 12. 10YR4/2 黄褐色砂質粘土
 13. 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 小礫混入
 14. 10YR2/2 黑褐色シルト粘土 土器片混入
 15. 10YR3/3 暗褐色シルト粘土
 16. 10YR3/3 暗褐色シルト粘土
 - 7.5YR4/2 褐色シルト粘土 かたくしまる

T18(a-a' b-b' c-c' d-d')

1. 10YR2/1 黑褐色質粘土 粒稍、土颗粒混入
 2. 7.5YR3/1 黑褐色シルト粘土
 3. 7.5YR2/2 黑褐色シルト粘土
 4. 10YR2/3 黑褐色質粘土
 5. 10YR3/3 暗褐色質粘土
 6. 10YR2/3 黑褐色シルト粘土
 7. 10YR2/2 黑褐色質粘土
 8. 10YR3/2 黑褐色シルト粘土
 9. 10YR2/1 黑褐色シルト粘土
 10. 10YR2/3 黑褐色質粘土 細砂混入
 11. 10YR2/2 黑褐色シルト粘土 粒稍少量混入
 12. 10YR2/2 黑褐色質粘土 細砂混入
 13. 10YR2/3 黑褐色質粘土
 14. 10YR2/2 黑褐色シルト粘土 細砂混入
 15. 10YR2/3 黑褐色質粘土 細砂混入
 16. 10YR3/2 黑褐色質粘土

T 15 は丘陵南半部の北東斜面、J 11-K 13 グリッドに幅 2 m × 長さ 10 m のトレンチとして設定した。調査の進展にあわせて南に幅 1 m × 長さ 5 m、北に幅 2 m × 3 m、幅 1.5 m × 長さ 3 m と順次拡張した。調査面積は 35.5 m² である。

(1) 地形

北東に面した斜面である。斜面上方は表層下に縄文時代の堆積層が残る。斜面途中で地山に達する攪乱を受け表層直下が地山となる。トレンチ北側に傾斜変換点があり、その先では斜面が緩やかになる。この緩斜面部において土坑（SK 7）を確認した。

(2) 遺構

長軸約 2.3 m × 短軸約 1.35 m の土坑（SK 7）を検出した。南東角がやや外に張り出す隅丸の長方形で、壁面は急角度で立ち上がるが南壁のみやや緩やかである。覆土は炭化物を多く含む層と焼土層の互層で土坑の底面は焼けていない。覆土や遺物の出土状況から古墳時代の焼成土坑と考えられ、焼土や炭化物の検出状況等から炭焼き土坑の可能性が考えられる。

(3) 遺物

SK 7 から二重口縁土器を含む土師器片が出土した。SK 7 からは炭化物も多く検出され、長さ 20 cm 前後の棒状炭化物も検出された。炭化物は主に土坑側壁に寄った位置で検出され、棒状炭化物の長軸は土坑側壁と概ね平行する。

第4節 第 16 a・第 16 b トレンチ（T 16 a・T 16 b）

T 16 a・T 16 b は丘陵南半部の北東斜面に設定した。当初は単一のトレンチで計画していたが畑を避けるため T 16 a と T 16 b に分割した。T 16 a は幅 2 m × 長さ 14 m で設定し、北側へ幅 1 m × 長さ 4 m 拡張した。T 16 b は幅 2 m × 長さ 18 m を設定し、南側へ幅 1 m × 長さ 3 m 拡張した。根がある地点では根を避けて幅を狭めた。調査面積は T 16 a が 30 m²、T 16 b が 39 m² である。

(1) 地形

T 16 a

頂部は水平である。肩部には土壠状の盛土遺構がみられ、斜面途中に二つのテラス帯がみられる。上から一つめのテラス帯は、底面山側に柵列状の柱列が検出された横堀状の溝を有する。二つめのテラス帯は縄文時代の堆積層を地山とし、平坦面にごく浅い溝に類する窪みが見られる。

T 16 b

南端は T 16 a の二つめのテラス帯から始まり山裾に向かって斜面となる。山裾の傾斜変換点に大溝跡（SD 7）がある。溝を越えると再びやや緩やかな斜面となる。斜面では概ね表層直下が地山となるが、テラス帯の肩部付近のみ縄文時代の堆積層が厚く残存する。

両トレンチとも、上から二つめのテラス帯は縄文時代の層を削って平坦面を形成し、その平坦面直上に張り付くように古墳時代の遺物が出土している。

(2) 遺構

T 16 a

頂部肩で土壘状の盛土遺構を検出した。盛土遺構は古墳時代の包含層上から構築され、拳大の角礫・円礫を多量に含む。古墳時代の遺構面は整地層で柱穴群が検出された。

横堀状の溝（S D 6）を有するテラスが検出された。溝底面の山側に柱穴が連なって検出された。これらは柱列と思われる。

次に S D 6 からさらに斜面を下ったところで二つめのテラスを検出した。縄文時代の堆積層を地山とし、平坦面上にごく浅い溝に類するくぼみが見られる。

T 16 b

T 16 a で検出された二つめのテラスを検出した。縄文時代の層を削って平坦面を形成し、その平坦面直上に張り付くように古墳時代の遺物が数多く出土した。この状況から、一見すると帶曲輪のように見えるこのテラス帯は当初想定していた中世に属する遺構である可能性は低く古墳時代の遺構と考えられる。山裾を廻る大溝跡（S D 7）を検出した。S D 7 は上端幅約 3 m、下端幅約 1.5 m、深さ約 80cm で断面は逆台形である。覆土からは多量の古墳時代の土師器が出土した。

(3) 遺物の出土状況

上から二つめのテラスや S D 7 から古墳時代の土師器が多く出土した。表層や縄文時代の堆積層からは、旧石器、縄文土器（尖底土器等）や石器等が出土した。縄文時代の堆積層が厚く残っている地点があることから本遺跡は旧石器から縄文前期にわたる遺跡としても市内において重要な遺跡の一つであると言える。また、古代の遺物は表層にわずかに混入する程度で中世の遺物はみられなかった。

第5節 第17トレーニング（T 17）

T 17 は丘陵南半部の頂部北西、K 13-M 13 グリッドに幅 1 m × 長さ 15 m のトレーニングとして設定した。調査の進展にあわせて西に幅 1 m × 長さ 3 m 拡張した。調査面積は 18m² である。

(1) 地形

頂部の平坦な長方形区画の外周にあたる帶曲輪状のテラス帯である。

(2) 遺構

トレーニング東端部で堀切状の溝跡（S D 10）からの続きとみられる溝跡（S D 8）のコーナー部を検出した。S D 8 はさらに T 16 a の S D 6 に繋がるものと思われる。トレーニング中央付近で南北軸の溝跡（S D 9）とその肩部で柱穴 1 基を検出した。トレーニング西半では整地層がみられた。

(3) 遺物の出土状況

二重口縁土器、器台等の古墳時代の土師器が出土した。

第6節 第18トレーニング（T 18）

T 18 は丘陵南半部頂部の堀切状の溝跡（S D 10）を跨ぐ形で設定した。K 14-M 14 グリッ

ドに幅1m×長さ15mのトレンチとして設定した。調査の進展にあわせて東に0.5m拡張した。調査面積は15.5m²である。

(1) 地形

頂部を東西に分ける堀切状の溝跡（SD 10）と土壙状の高まりが確認できる。SD 10から西側では概ね表層直下が地山となる。

(2) 遺構

地表面からも確認できる堀切状の溝跡（SD 10）は、上幅約5m、下幅約2.3mで深さ0.5m程度である。上幅約2m、下幅約1.4mの溝として一部掘り直されたとみられ、凝灰岩礫が多量に埋められていた。

SD 10東側、頂部の肩部で2時期の土壙状の盛土遺構を確認した。下層のものを盛土遺構1、上層のものを盛土遺構2とした。盛土遺構1は地山上に造られており、盛土上から古墳時代の遺物が出土した。盛土遺構2は地表面上に土壙状に見えている遺構で古墳時代の包含層上に盛られている。盛土遺構1の外側（西側）に柱列を確認した。また、トレンチ東端で上幅45cm、下幅約1m、南北方位の畦畔状の地山の高まりを検出した。

(3) 遺物の出土状況

古墳時代の土師器が盛土遺構1の上面及び盛土遺構2の盛土内から出土した。

IV 調査結果

第1節 調査地（丘陵南半部北東～頂部）の地形について

丘陵南半部は全体的に東西に長い長方形に近い地形をしており、東西約130m、南北約86mである。丘陵頂部には、従来中世城館の主郭と考えられていた東西約55m、南北約41mの方形で台状の地形が見られ、周囲に帶曲輪状のテラス帯が数段存在する。今次調査では、丘陵裾から頂部にかけ2つの帶曲輪状のテラス帯が存在し、全体で三段になっていることが確認された。このテラス帯や頂部の平坦面は、遺物の出土状況から古墳時代に造成された可能性が考えられた。調査前に想定されていた中世城館の造成等をはじめ、中世における大規模な地形改変は確認されず、古墳時代の地形が残存している可能性がある。また北西斜面には、一部繩文時代前期を中心とする自然堆積層が残ることが確認された。

第2節 遺構について

T 16 aでは、頂部で整地層と柱穴群、土壙状の盛土遺構が検出された。柱穴群は古墳時代の遺構とみられ、その包含層の上に盛土遺構が構築されている。古墳時代の包含層は自然堆積とみられ人為的に盛土を行った様子は無く、古墳を築いた盛土は存在しない。したがって古墳時代の南森丘陵には集落があったと考えられ、丘陵全体を使って大型古墳が築造されたとは考えにくい。

同様の土壙状の盛土遺構はT 18で2時期の遺構（盛土遺構1・2）が検出された。このうち盛土遺構1は古墳時代の遺構と思われる。盛土遺構2は古墳時代の包含層上に構築されて

おり、T 16 a の盛土遺構に相当するものと思われる。

頂部から下って一つめのテラス帯で溝跡（S D 6、S D 8）が確認された。S D 6 と S D 8 は同一の溝跡と思われ、さらに堀切状の溝跡（S D 10）に繋がり、頂部を区画する溝跡と思われる。S D 6 の山側底面及び T 18 の盛土遺構 1 の外側で柵列状の柱列が検出された。S D 6 の一次堆積層には多量の礫が混入しており、溝の上方斜面の表層にこれらの供給元となった礫があったと思われる。土壘状の盛土遺構に礫が多く混入している理由として、構造材として礫を後から入れ込んだのではなく、元々多くの礫を含んでいた斜面の土を使用した可能性が考えられ、S D 6 や柱列は土壘状の盛土遺構よりも前に存在していたものとも思われる。

さらに頂部から下ったところで一つめのテラス帯や頂部の地形北辺に平行する二つめのテラス帯が確認された。遺物の出土状況からこのテラス帯が帶曲輪等の中世遺構である可能性は低いと判断され、古墳時代の遺構の可能性が高まった。

T 16 b では、丘陵裾に古墳時代の溝跡（S D 7）が確認された。自然地形の等高線に沿って丘陵裾を廻る可能性があるが T 3、T 4 では削平が著しいためか同様の溝跡は検出されていない。T 5 や T 10 b の丘陵裾部で検出されている段が同様の溝跡の一部である可能性があるがなお検討を要する。

T 15 では、焼成土坑（S K 7）を検出した。炭焼き土坑等の生産遺構と思われる。

T 14 では、段状地形の一部を検出した。T 1 の段状地形に続くものと思われる。

T 18 の堀切内で、表層直下から凝灰岩の礫群が検出された。隣地にある神明神社の石垣み等の工事で生じた廃材を投棄したものと思われる。

V 理化学分析

南陽市教育委員会様 3 点の年代測定

2022 年 9 月 1 日

山形大学高感度加速器質量分析センター

1. はじめに

南陽市教育委員会様よりご依頼頂いた試料 3 点（写真 1）に対して、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

2. 試料と測定方法

表 1 に試料情報を示す。測定試料は、元素分析計、質量分析計、ガラス真空ラインより構成されるグラファイト調整システムにてグラファイト化を行った。その後、加速器質量分析装置（NEC 製 1.5SDH）を用いて放射性炭素濃度を測定した。

3. 結果

表 2 に同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行った放射性炭素年代、較正曲線データを使用して放射性炭素年代を暦年代に較正した年代範囲を示す。試料の暦年較正結果については、本報告書に添付した。



写真1. 試料情報

表1. 試料情報

ラボコード	測定試料名	試料情報	試料状態	処理
YU-16467	No1-SP4	南陽市教育委員会 社会教育課試料 2022/08/03受取 ①丘陵頂部の柱穴群の遺構面 採取のもの 炭化物試料 長岡南森遺跡5次 トレンチ16a No1-SP4	前処理後の試料 65.108mgから2.330mg使用	AAA処理 1M HCl 80度1時間 1M NaOH 80度1時間 (3回) 1M HCl 80度1時間
YU-16468	No2-SD7	南陽市教育委員会 社会教育課試料 2022/08/03受取 ②溝跡 (SD 7) 採取のもの 炭化物試料 長岡南森遺跡5次 トレンチ16b SD7 No2-SD7	前処理後の試料 18.843mgから2.368mg使用	AAA処理 1M HCl 80度1時間 1M NaOH 80度1時間 (3回) 1M HCl 80度1時間
YU-16469	No3-SK7	南陽市教育委員会 社会教育課試料 2022/08/03受取 ③土坑 (SK 7) 採取のもの 炭化物試料 長岡南森遺跡5次 トレンチ15 SK7 No3-SK7	前処理後の試料 38.935mgから2.365mg使用	AAA処理 1M HCl 80度1時間 1M NaOH 80度1時間 (3回) 1M HCl 80度1時間

表2. 放射性炭素年代測定及び歴年較正の結果

測定番号	試料名	$d^{13}C$ (‰)	放射性炭素年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	放射性炭素年代を曆年代に較正した年代範囲	
				1σ 歴年代範囲	2σ 歴年代範囲
YU-16467	No1-SP4	-27.89 \pm 0.27	1896 \pm 20	122AD (48.4%) 174AD 181AD (19.9%) 203AD	80AD (8.1%) 100AD 108AD (87.4%) 215AD
YU-16468	No2-SD7	-30.83 \pm 0.28	1732 \pm 20	255AD (28.6%) 286AD 325AD (39.7%) 365AD	250AD (34.5%) 295AD 311AD (61.0%) 403AD
YU-16469	No3-SK7	-29.92 \pm 0.25	1742 \pm 20	251AD (13.6%) 266AD 272AD (19.4%) 293AD 316AD (35.3%) 353AD	246AD (95.4%) 381AD

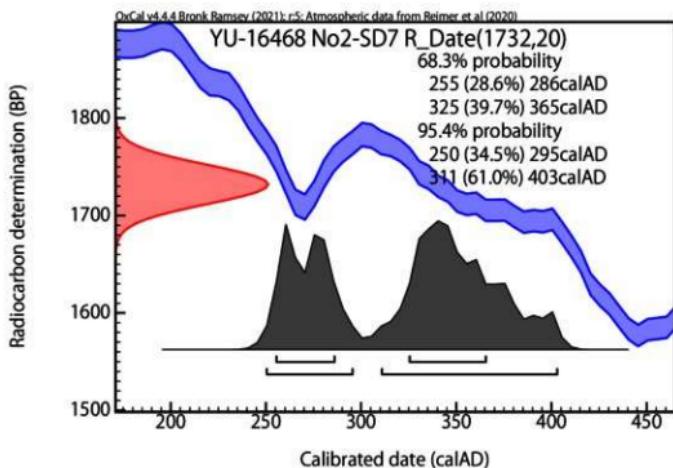
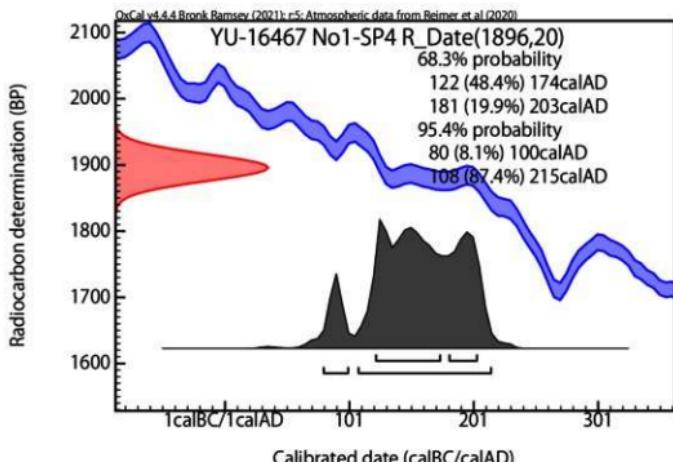
===== 年代測定の考え方 =====

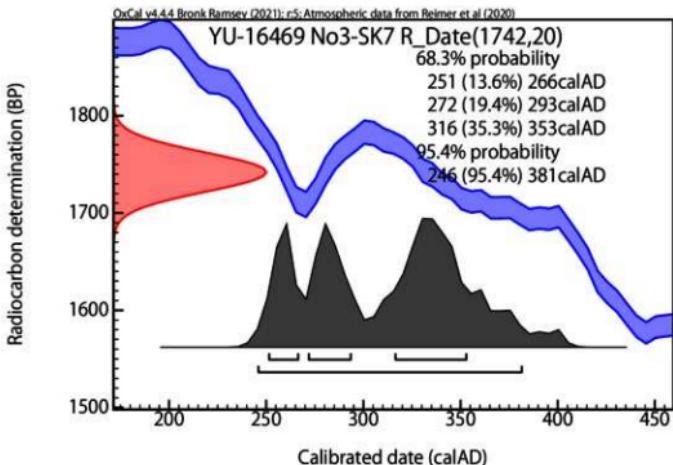
放射性炭素 (^{14}C) 年代は AD 1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68. 2% であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 \pm 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。 ^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4. 4. 2¹⁾ (較正曲線データ : Int Cal 20²⁾) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68. 2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95. 4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

参考文献

- 1) C Bronk Ramsey, BAYESIAN ANALYSIS OF RADIOCARBON DATES , Radiocarbon, 51 (1), 337-360 (2009).
- 2) Paula J Reimer, William E N Austin, Edouard Bard, Alex Bayliss, Paul G Blackwell, Christopher Bronk Ramsey, Martin Butzin, Hai Cheng, R Lawrence Edwards, Michael Friedrich, Pieter M Grootes, Thomas P Guilderson, Irka Hajdas, Timothy J Heaton, Alan G Hogg, Konrad A Hughen, Bernd Kromer, Sturt W Manning, Raimund Muscheler, Jonathan G Palmer, Charlotte Pearson, Johannes van der Plicht, Ron W Reimer, David A Richards, E Marian Scott, John R Souton, Christian S M Turney, Lukas Wacker, Florian Adolphi, Ulf Büntgen, Manuela Capello, Simon M Fahrni, Alexandra Fogtmann -Schulz, Ronny Friedrich, Peter Köhler, Sabrina Kudsk, Fusa Miyake, Jesper Olsen, Frederick Reinig, Minoru Sakamoto, Adam Sookdeo, Sahra Talamo , THE INTCAL20 NORTHERN HEMISPHERE RADIOCARBON AGE CALIBRATION CURVE (0 –55 CAL kBP) , Radiocarbon, 62, 1-33 (2020).





長岡南森遺跡確認調査 写真図版



作業状況（東より）



第14 トレンチ完掘状況（北西より）



第14 トレンチ完掘状況（南東より）



第15 トレンチ完掘状況（北東より）



第15 トレンチ SK7 検出状況（北東より）



第15 トレンチ SK7 調査状況（南より）

第15 トレンチ調査状況

写真図版2



第16 a トレンチ完掘状況（北東より）



第16 a トレンチ完掘状況（南西より）



第16 a トレンチ調査状況（南西より）



第16 a SD6 完掘状況（東より）

第16 a トレンチ調査状況

写真図版 3



第16 b トレンチ完掘状況（北東より）



第16 b トレンチ完掘状況（南より）



第16 b トレンチ SD7 調査状況（北東より）

第16 b トレンチ調査状況

写真図版4



第16 b トレンチ SD7 完掘状況（北より）



第 17 トレンチ完掘状況（東より）



第 17 トレンチ完掘状況（西より）

第 17 トレンチ調査状況



第18 トレンチ完掘状況（東より）



第18 トレンチ完掘状況（西より）



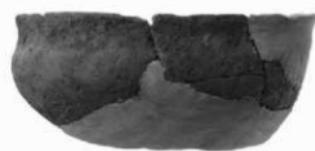
土師器 壺



土師器 小型丸底壺



土師器 壺



土師器 丸底壺



土師器 器台



縹文土器



石器

一錢銅貨（大正十二年）

出土遺物（2）

写真図版 8

報告書抄録

南陽市埋蔵文化財調査報告書第 24 集

南陽市遺跡分布調査報告書（11）

市内遺跡分布調査

第五次長岡南森遺跡確認調査（概報）

2023 年 3 月 31 日

発行 南陽市教育委員会

〒 999-2292 山形県南陽市三間通 436 番地の 1

電話 0238-40-3211(代)

印刷 有限会社文進堂印刷

〒 999-2221 山形県南陽市門塚 811 番地の 3

電話 0238-43-2116

